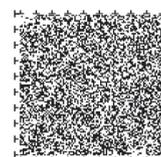


Ⅲ

現状と課題

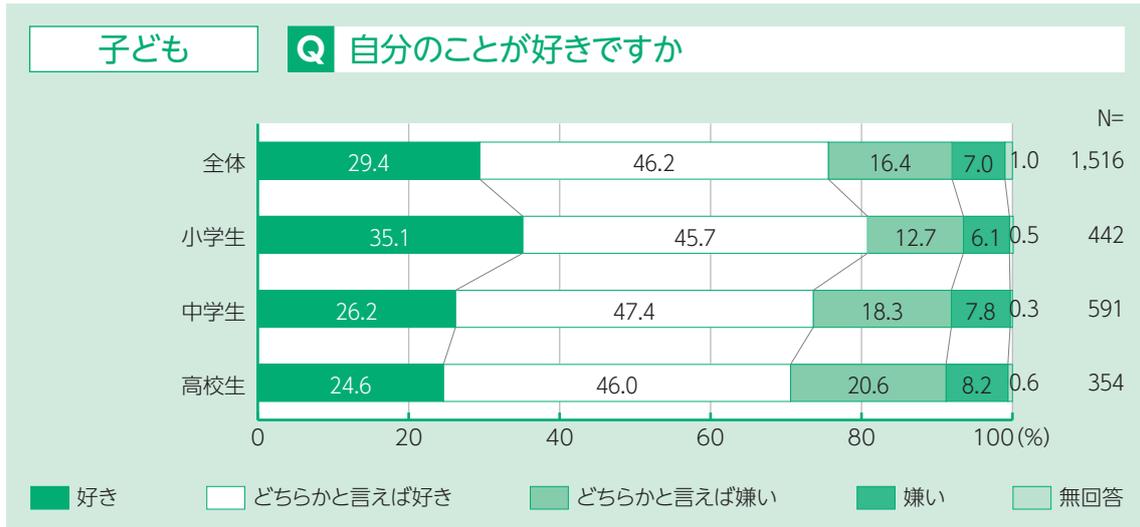
NAGOYA KODOMO・KOSODATE
WAKUWAKU PLAN 2029



① 現状

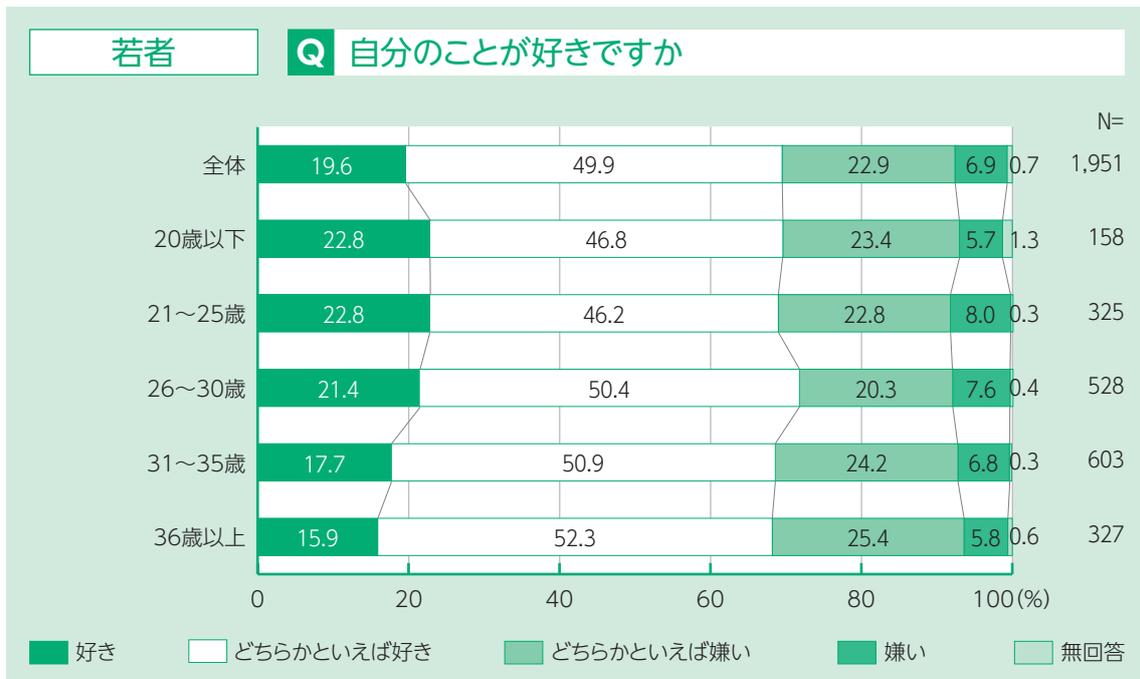
(1) 子ども・若者を取り巻く現状

■ 子どもへの「自分のことが好きですか」という質問に対して、全体では、「好き」が29.4%、「どちらかと言えば好き」が46.2%でした。高校生になるにつれて、「好き」の割合が低くなっています。

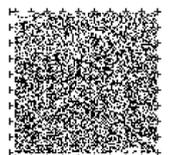


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 子ども調査)

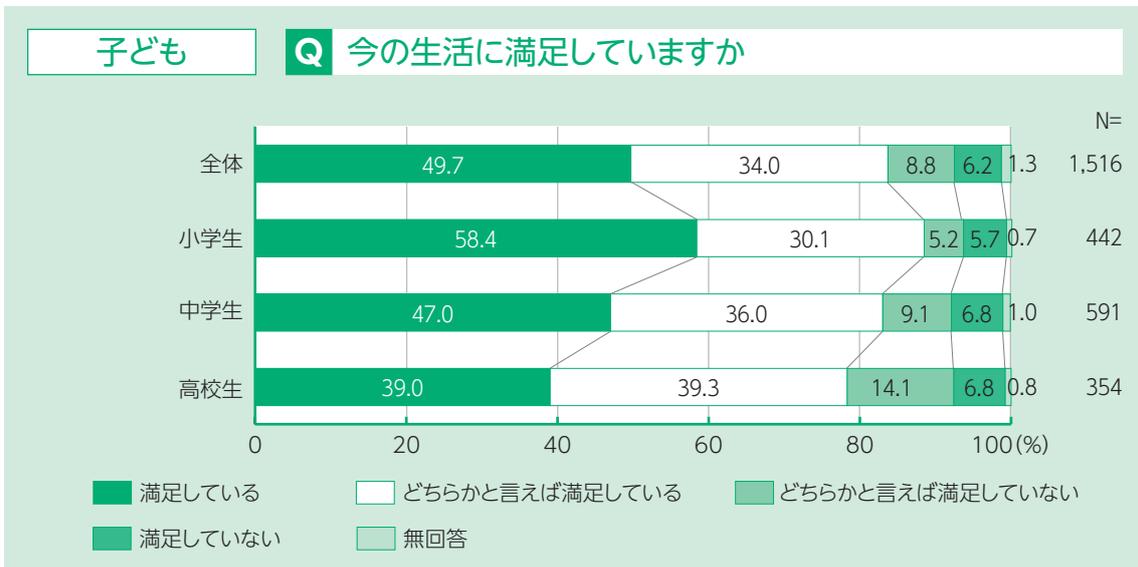
■ 若者への「自分のことが好きですか」という質問に対して、全体では、「好き」が19.6%、「どちらかといえは好き」が49.9%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

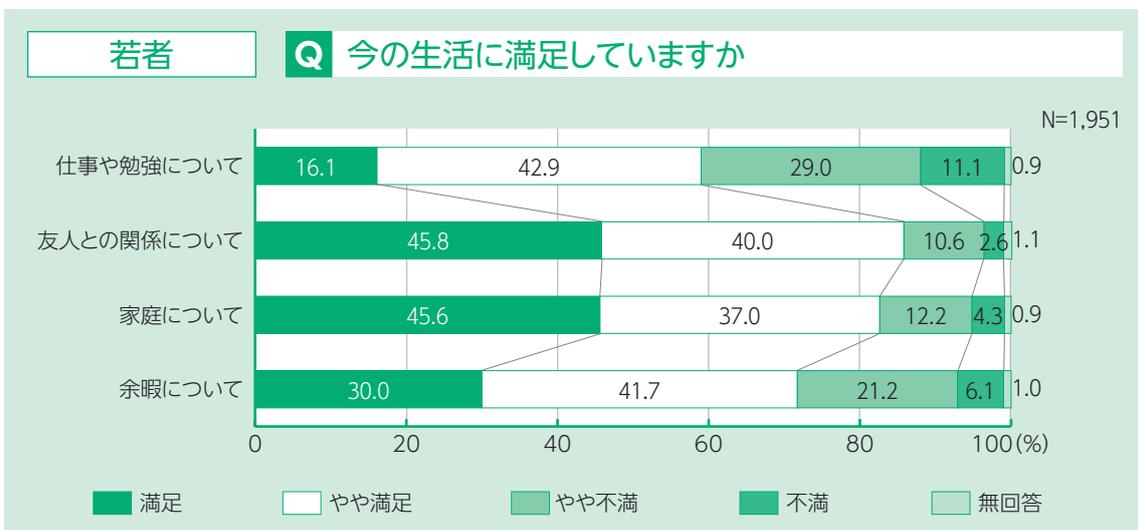


■子どもへの「今の生活に満足していますか」という質問に対して、全体では、「満足している」が49.7%、「どちらかと言えば満足している」が34.0%でした。高校生になるにつれて、「満足している」の割合が低くなっています。

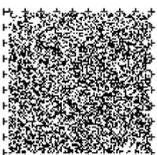


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 子ども調査)

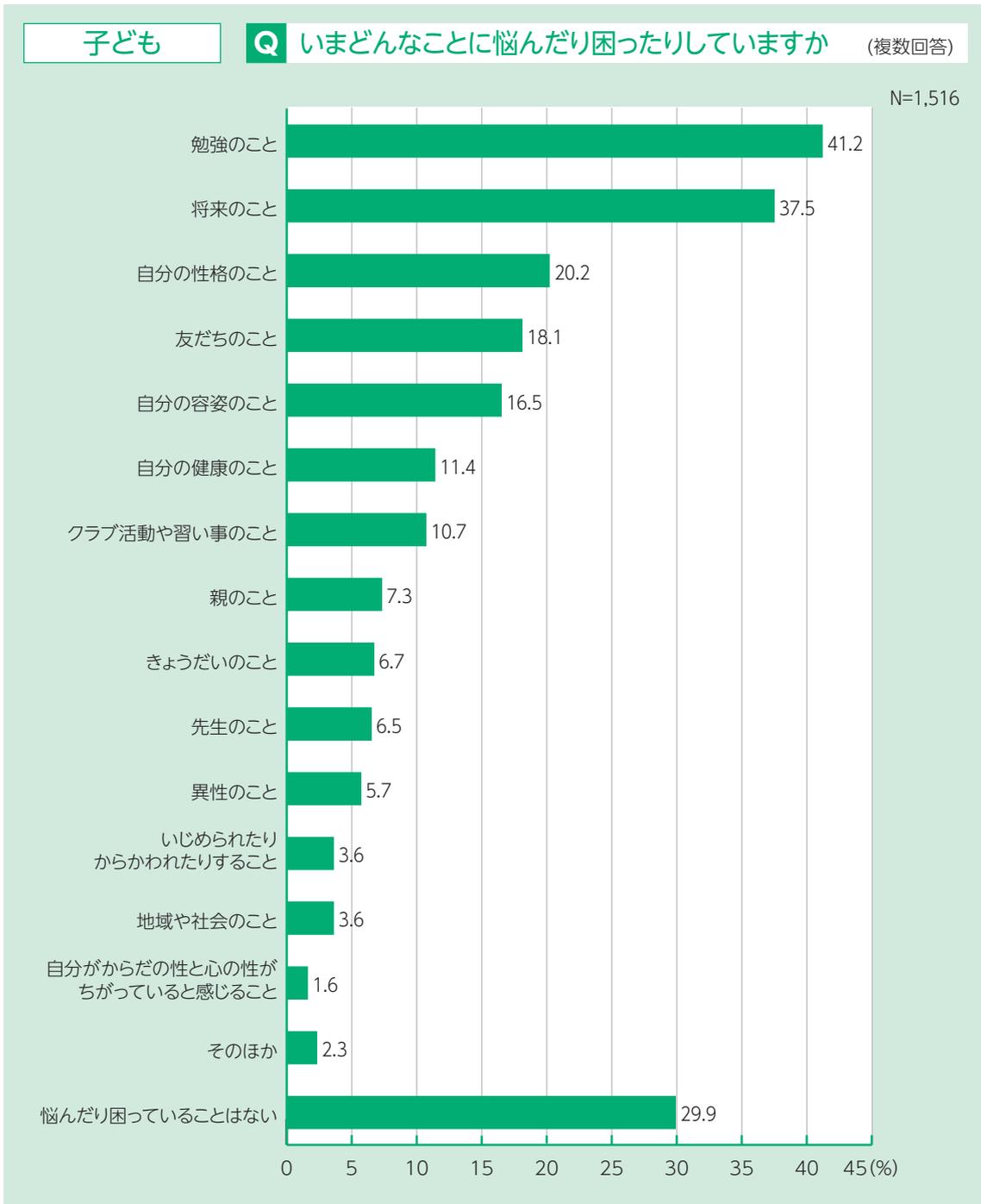
■若者への「今の生活に満足していますか」という質問に対して、友人との関係について「満足」、「やや満足」を合わせた割合が85.8%、家庭について「満足」、「やや満足」を合わせた割合が82.6%でした。



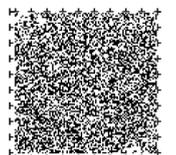
(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)



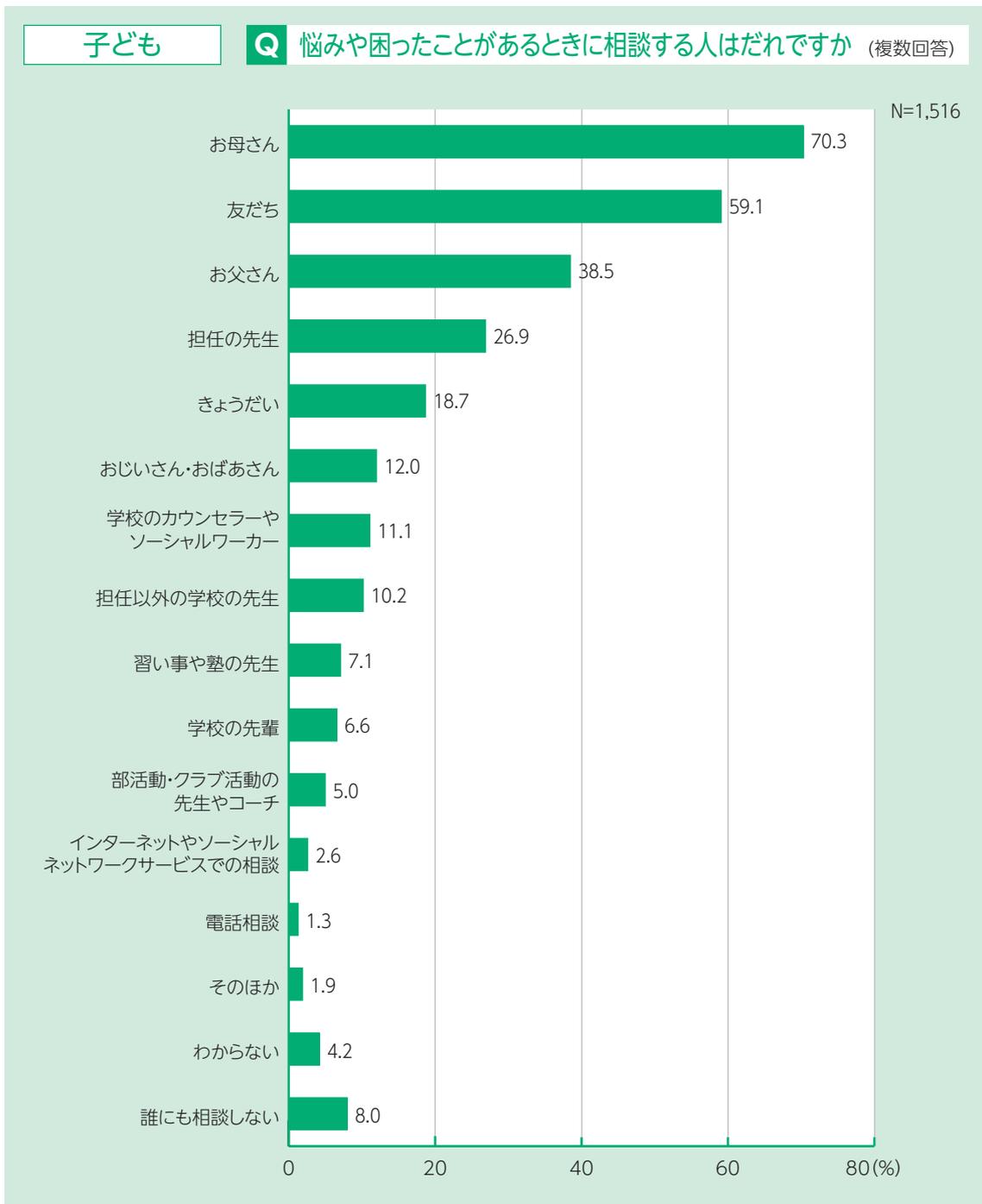
■子どもへの「いま、どんなことに悩んだり困ったりしていますか」という質問に対して、「勉強のこと」が41.2%、「将来のこと」が37.5%でした。一方、「悩んだり困っていることはない」は29.9%でした。



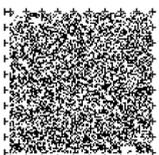
Ⅲ 現状と課題



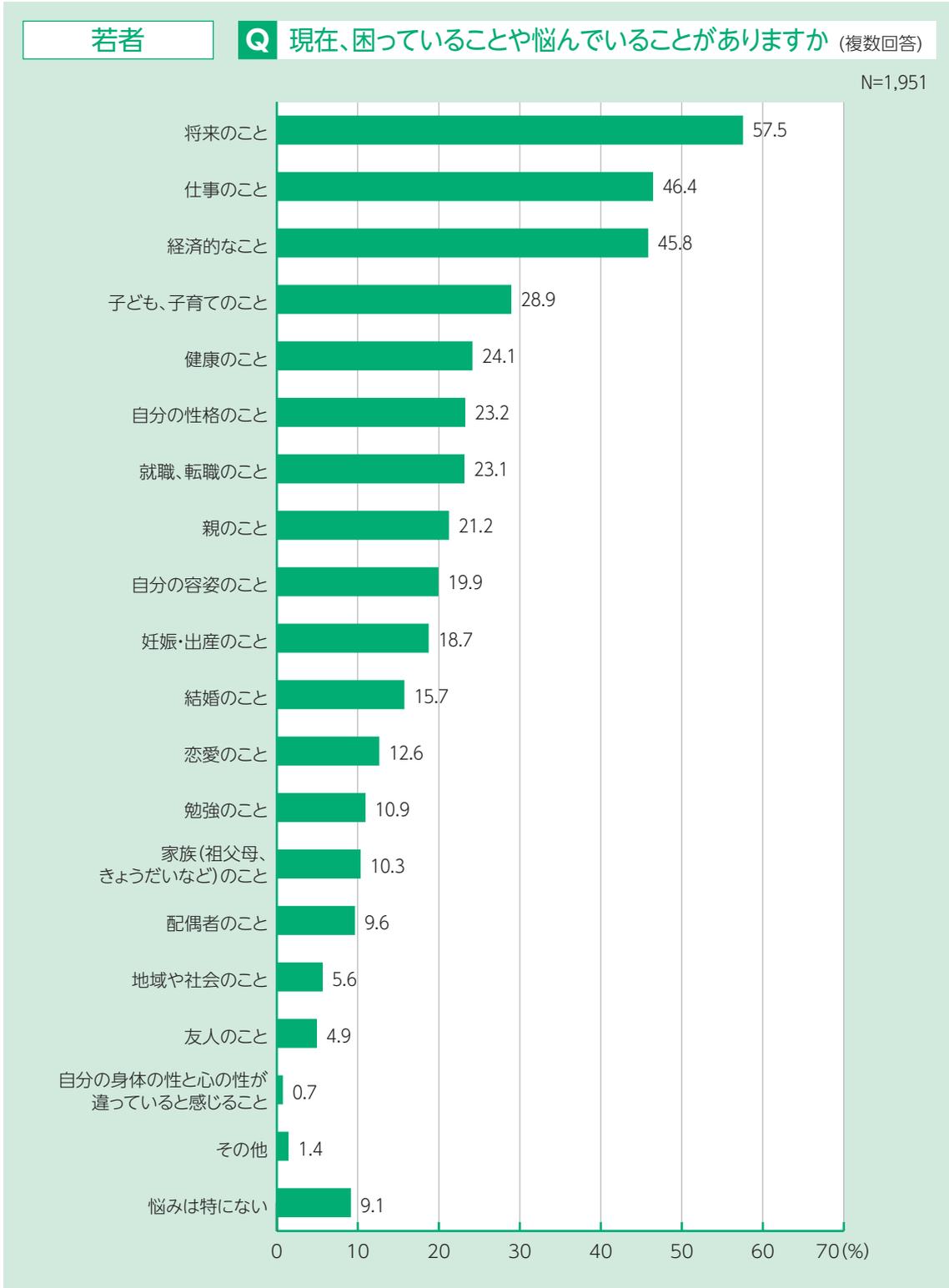
■子どもへの「悩みや困ったことがあるときに相談する人はだれですか」という質問に対して、「お母さん」が70.3%、「友だち」が59.1%でした。一方、「誰にも相談しない」は8.0%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 子ども調査)

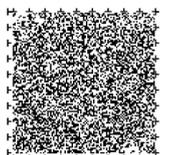


■若者への「現在、困っていることや悩んでいることがありますか」という質問に対して、「将来のこと」が57.5%、「仕事のこと」が46.4%でした。一方で、「悩みは特にない」は9.1%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

Ⅲ 現状と課題



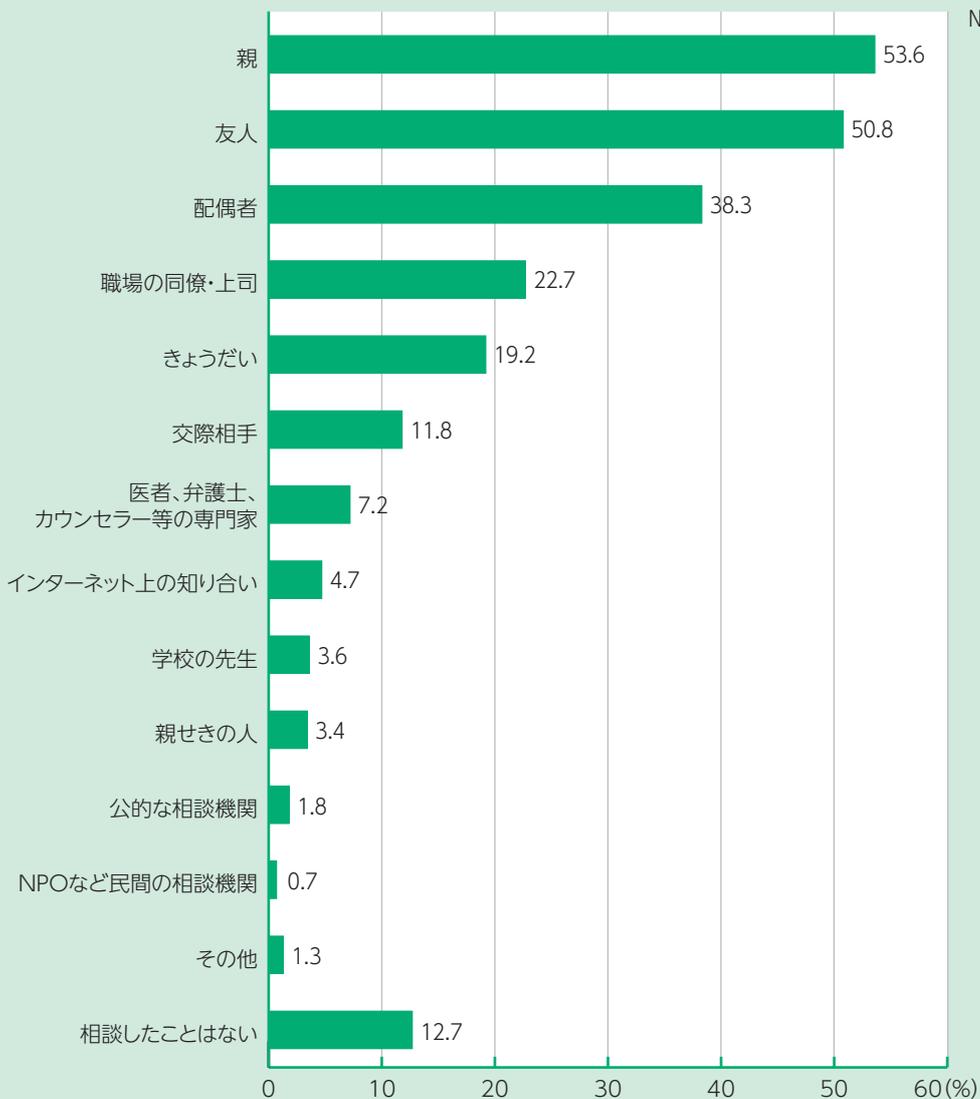
■若者への「過去、困っていることや悩みを相談した人はいですか」という質問に対して、「親」が53.6%、「友人」が50.8%でした。一方、「相談したことはない」は12.7%でした。

若者

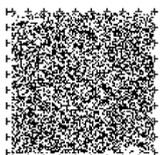
Q 過去1年くらいの間に、困っていることや悩みを相談した人はいですか

(複数回答)

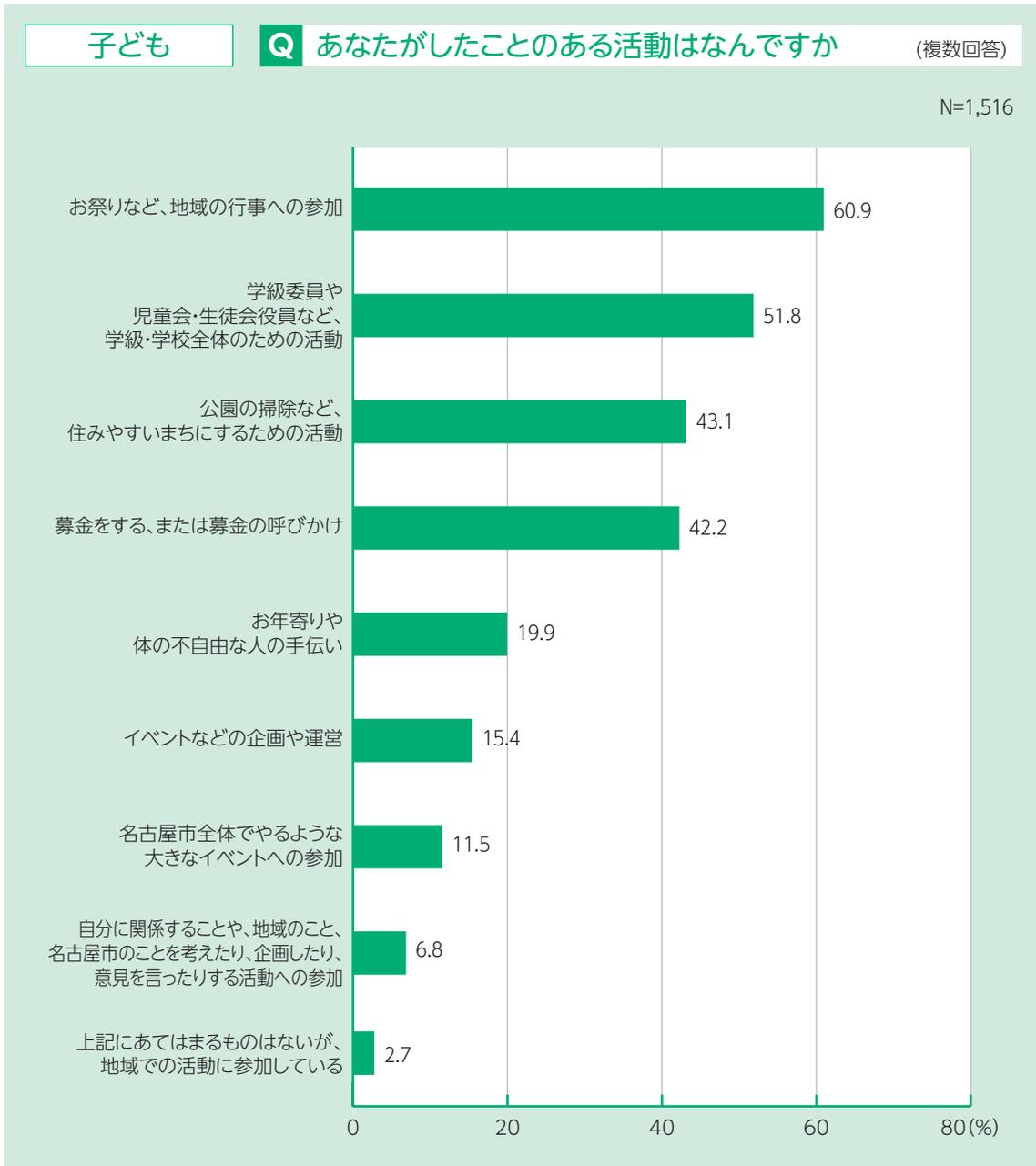
N=1,951



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

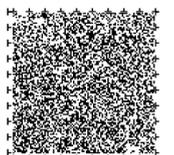


■子どもへの「あなたがしたことのある活動はなんですか」という質問に対して、「お祭りなど、地域の行事への参加」が60.9%、次いで「学級委員や児童会・生徒会役員など、学級・学校全体のための活動」が51.8%でした。

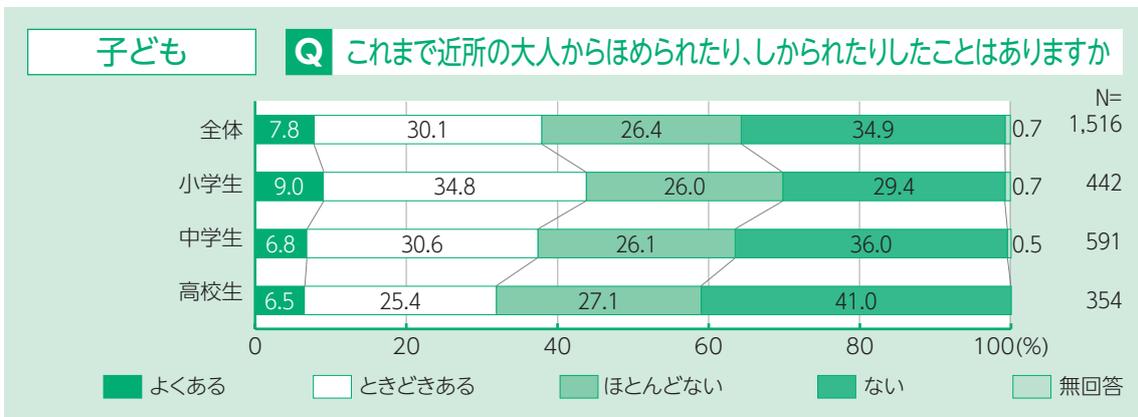


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 子ども調査)

Ⅲ 現状と課題

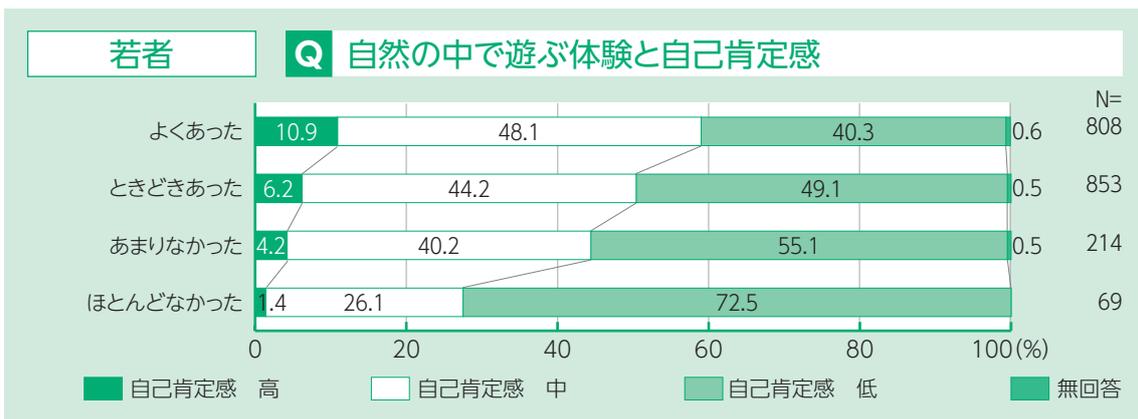


■子どもへの「これまで近所の大人からほめられたり、しかられたりしたことはありますか」という質問に対して、全体では、「よくある」が7.8%、「ときどきある」が30.1%でした。高校生になるにつれて、「よくある」「ときどきある」の割合が低くなっています。



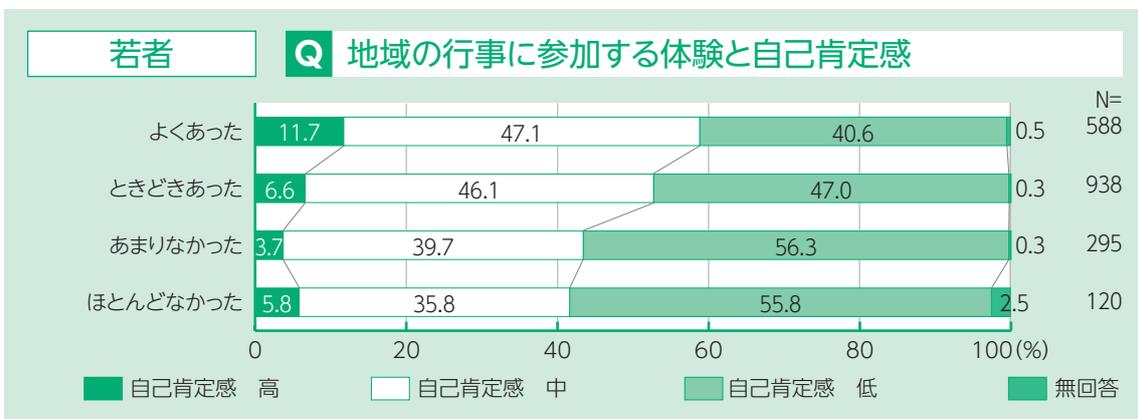
(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 子ども調査)

■小学生・中学生の頃に自然の中で遊ぶ体験をした若者ほど「自己肯定感」が高い傾向があります。

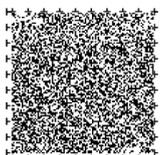


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

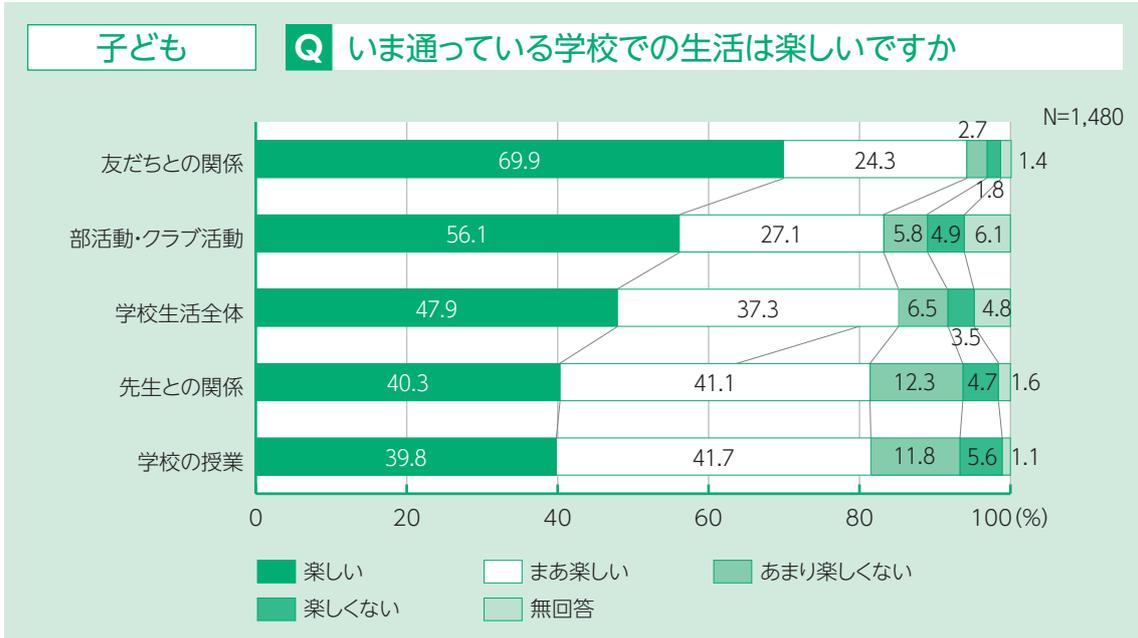
■小学生・中学生の頃に地域の行事に参加する体験をした若者ほど「自己肯定感」が高い傾向があります。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

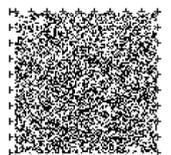
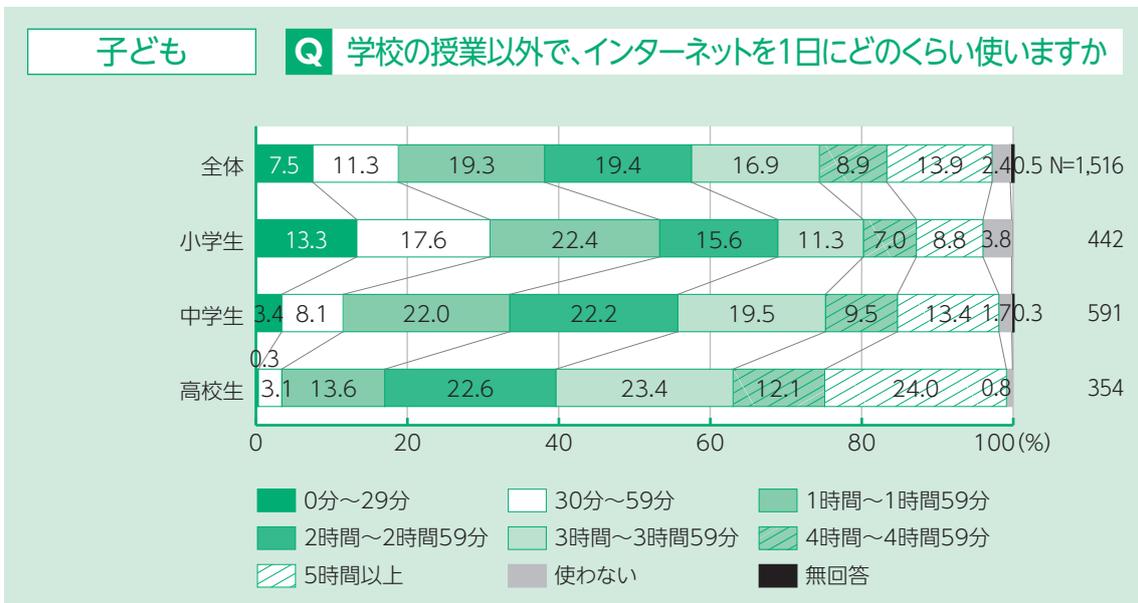


■子どもへの「いま通っている学校での生活は楽しいですか」という質問に対して、「友だちとの関係が楽しい」が69.9%、「部活動・クラブ活動が楽しい」が56.1%でした。



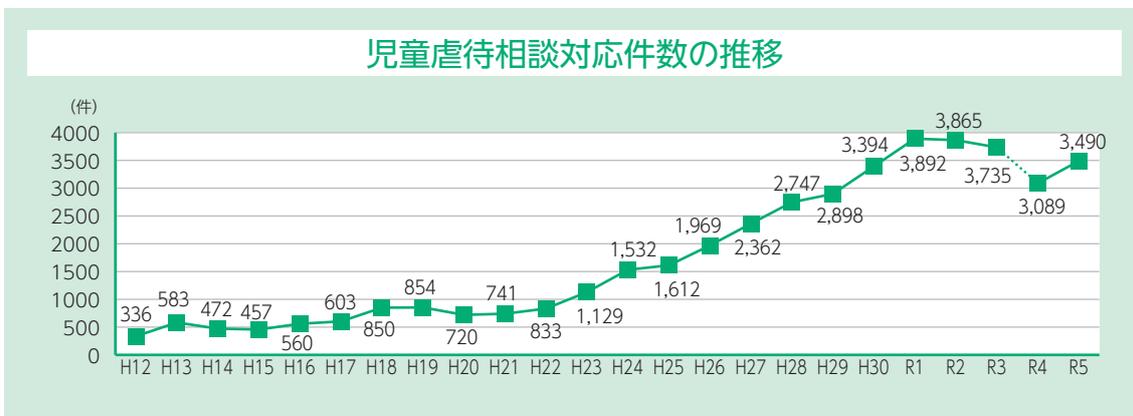
Ⅲ 現状と課題

■子どもへの「学校の授業以外で、タブレット、パソコンやスマートフォン、携帯電話などでインターネットを1日にどのくらい使いますか」という質問に対して、全体では、「2時間～2時間59分」が19.4%、次いで「1時間～1時間59分」が19.3%でした。高校生になるにつれて、長時間使う割合が高くなっています。



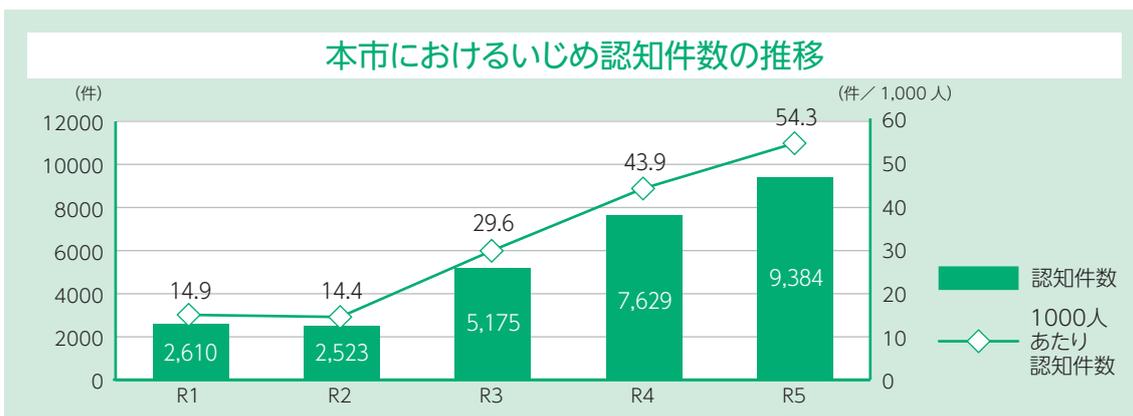
■ 令和5年度の児童虐待相談対応件数は3,490件（前年比13.0%増）でした。

※ 令和3年度以前は新規受付相談及び過年度からの継続相談への対応件数であり、令和4年度以降は新規受付相談への対応件数



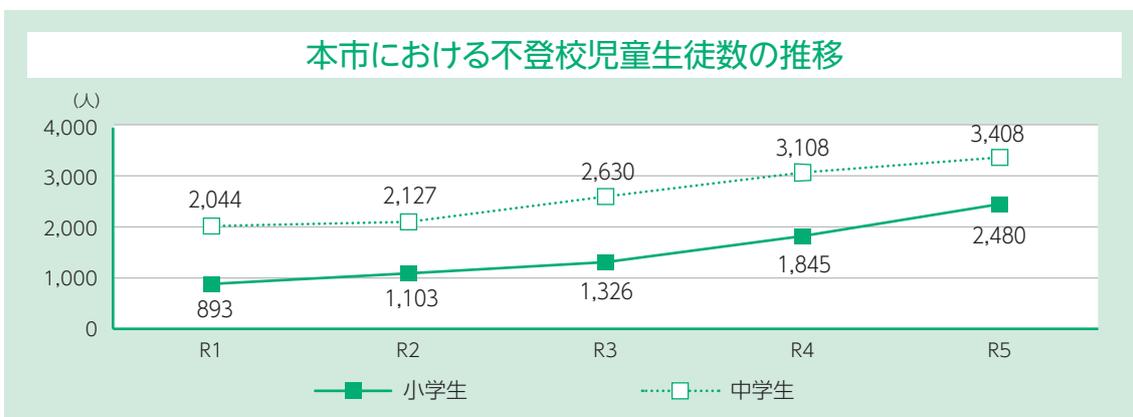
(出典:名古屋市子ども青少年局調べ)

■ 市立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における令和5年度のいじめ認知件数は9,384件、1,000人あたり認知件数は54.3でした。

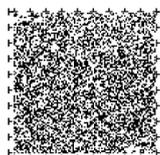


(出典:名古屋市教育委員会調べ)

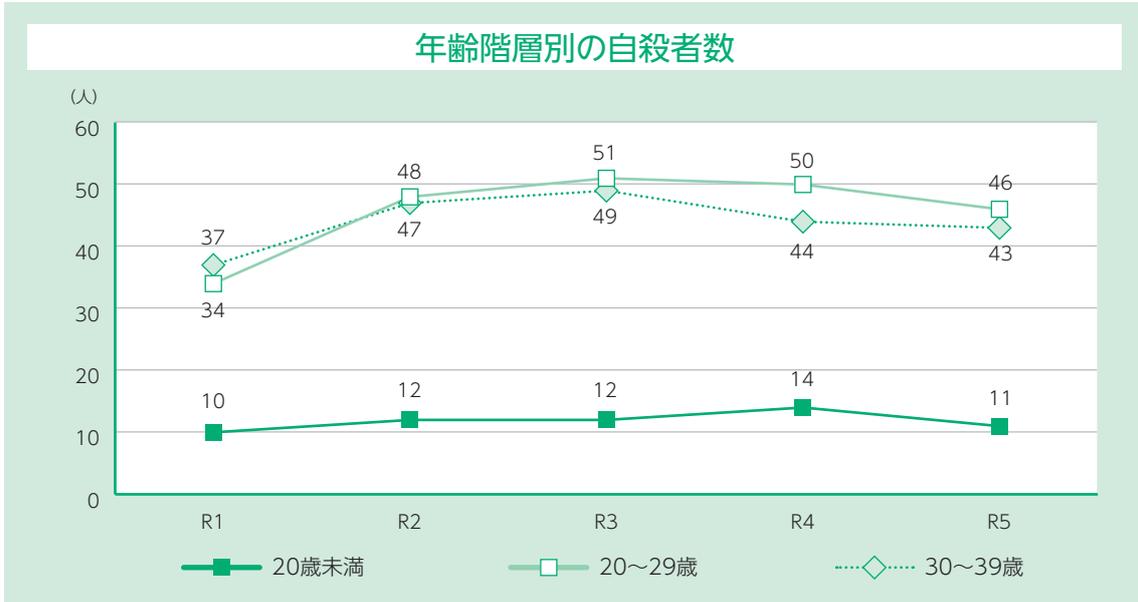
■ 令和5年度に30日以上不登校となった児童生徒数は市立小学校で2,480人、市立中学校で3,408人でした。



(出典:名古屋市教育委員会調べ)

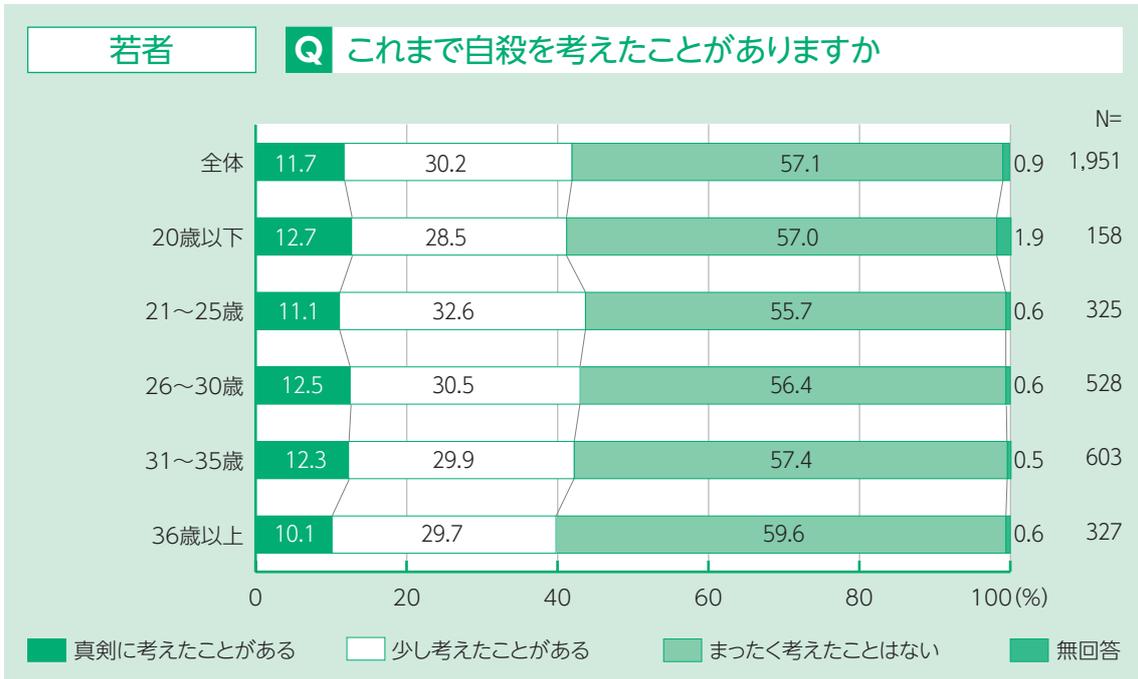


■本市の令和5年の自殺者数は、20歳未満で11人、20～29歳で46人、30～39歳で43人でした。



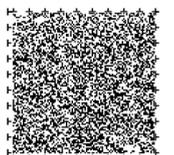
(出典:厚生労働省「人口動態統計」)

■若者への「これまで自殺を考えたことがありますか」という質問に対して、全体では、「真剣に考えたことがある」が11.7%、「少し考えたことがある」が30.2%でした。

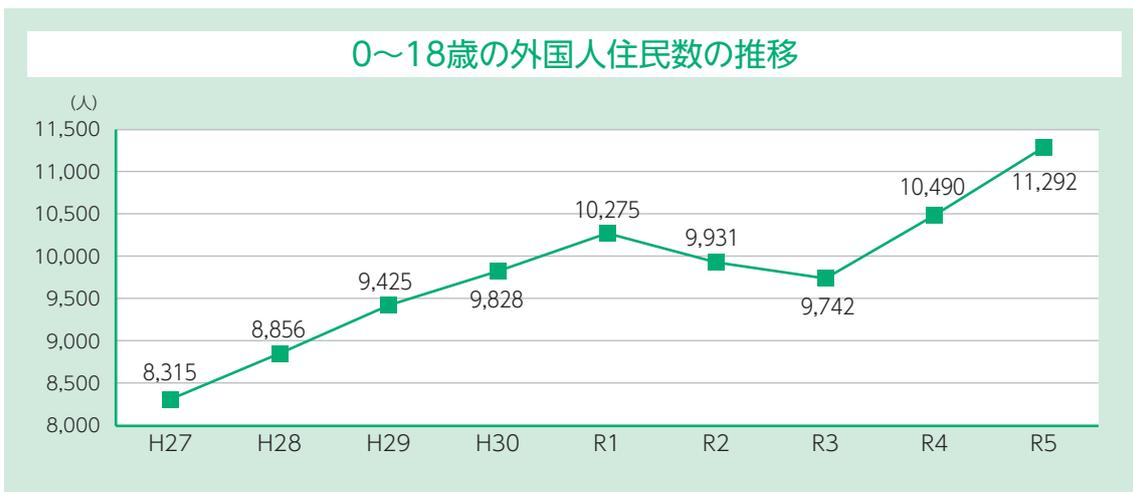


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

Ⅲ 現状と課題

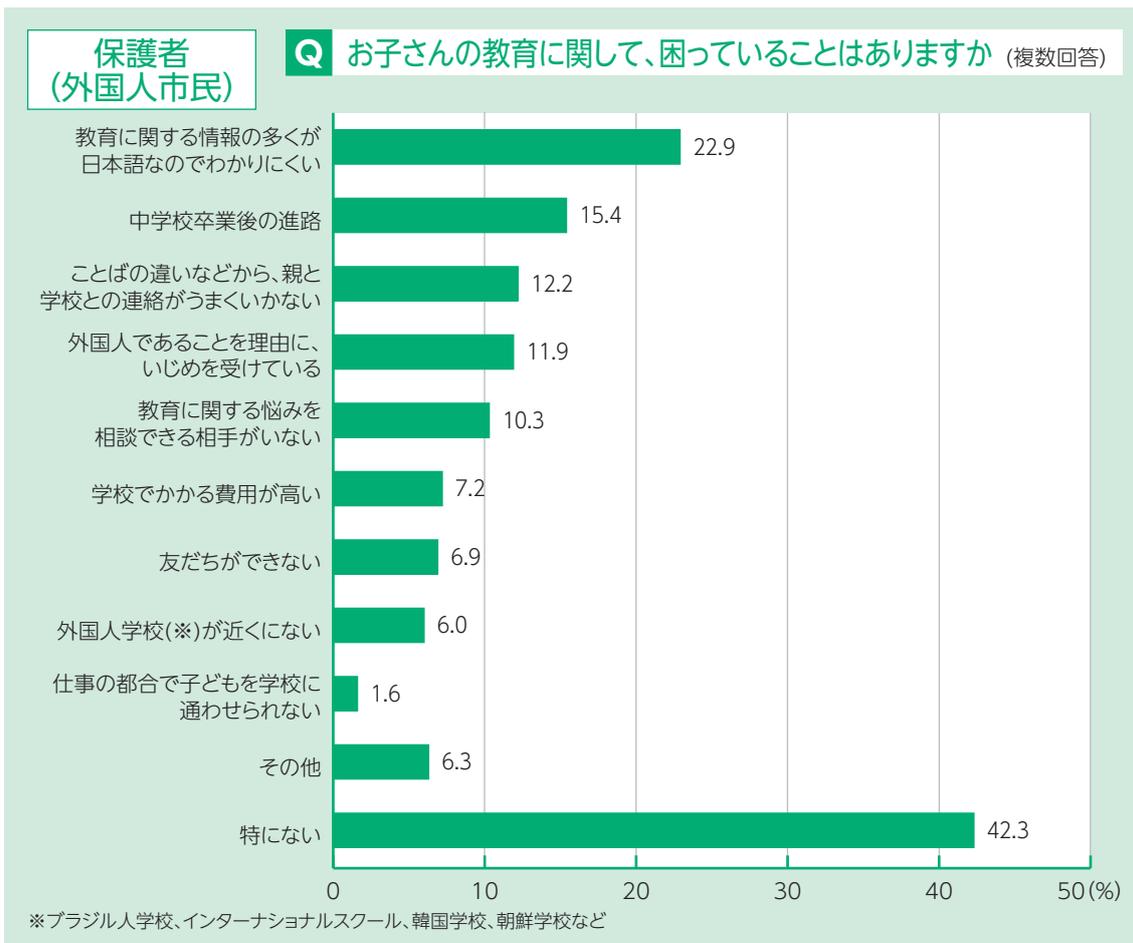


■ 0～18歳の外国人住民数は令和5年末で11,292人でした。

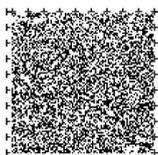


(出典:名古屋市外国人住民統計)

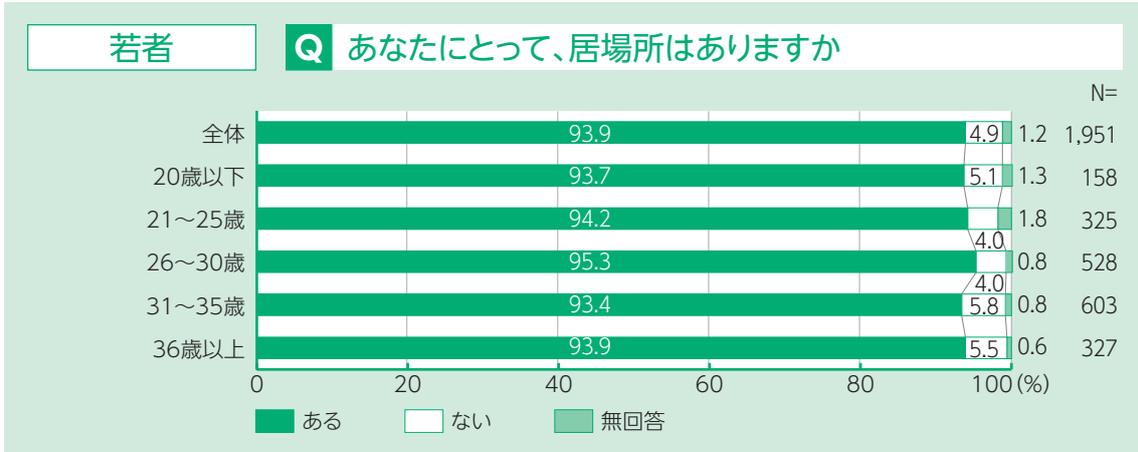
■ 「令和2年度 名古屋市外国人市民アンケート調査」によると、お子さんの教育に関して困っていることとして、「教育に関する情報の多くが日本語なのでわかりにくい」が22.9%、「中学校卒業後の進路」が15.4%でした。



(出典:令和2年度 名古屋市外国人市民アンケート調査)

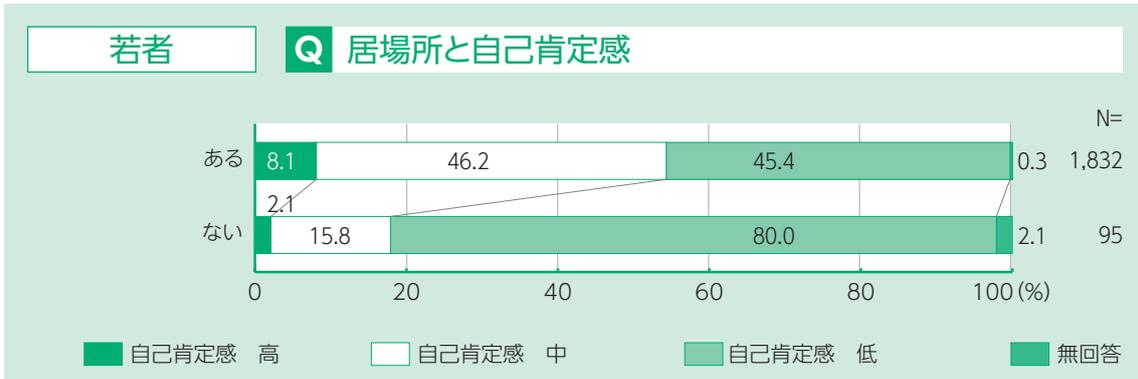


■若者への「あなたにとって、居場所（ほっとできる場所、居心地のよい場所）はありますか」という質問に対して、全体では、「ある」が93.9%、「ない」が4.9%でした。



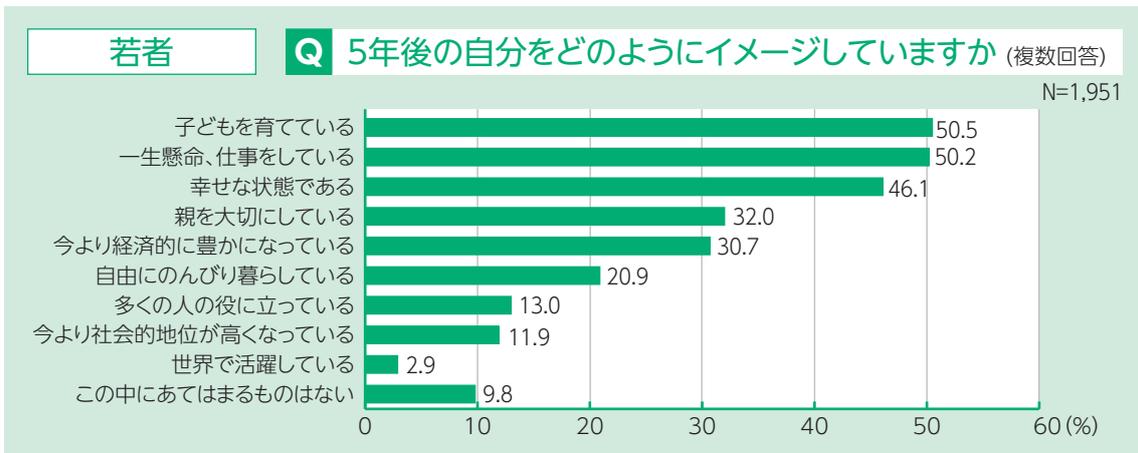
(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

■居場所がある若者の方が、「自己肯定感」が高い傾向があります。

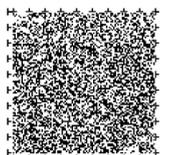


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

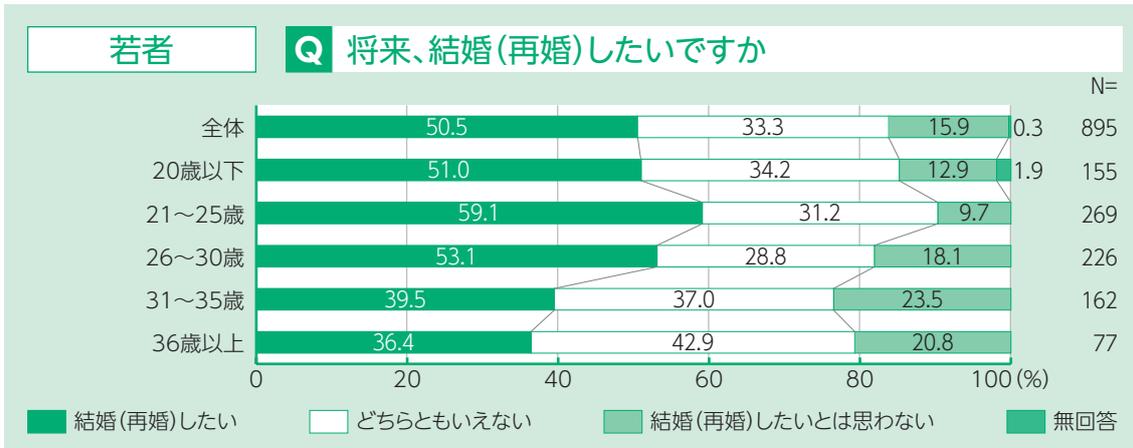
■若者への「5年後の自分をどのようにイメージしていますか」という質問に対して、「子どもを育てている」が50.5%、「一生懸命、仕事をしている」が50.2%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

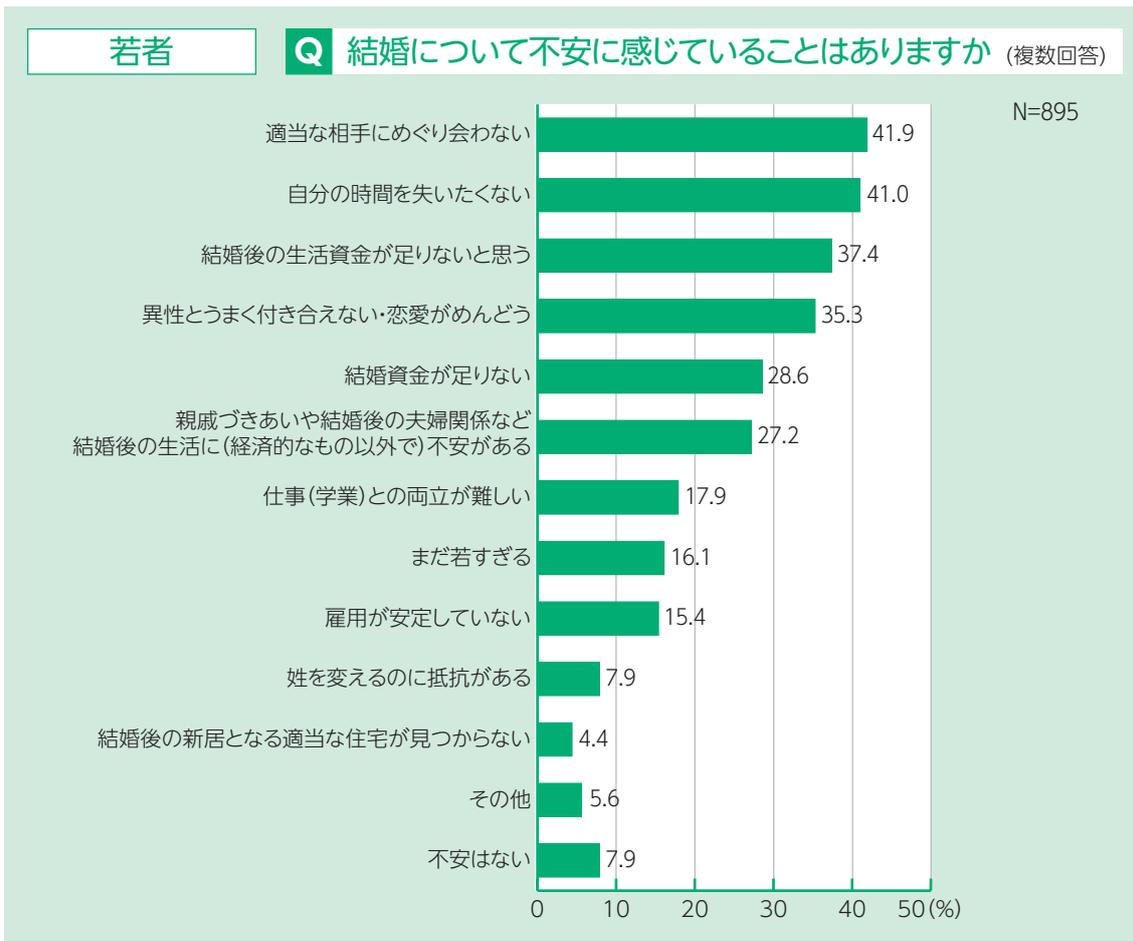


■若者への「将来、結婚（再婚）したいですか」という質問に対して、全体では、「結婚（再婚）したい」が50.5%でした。

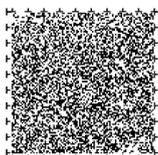


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

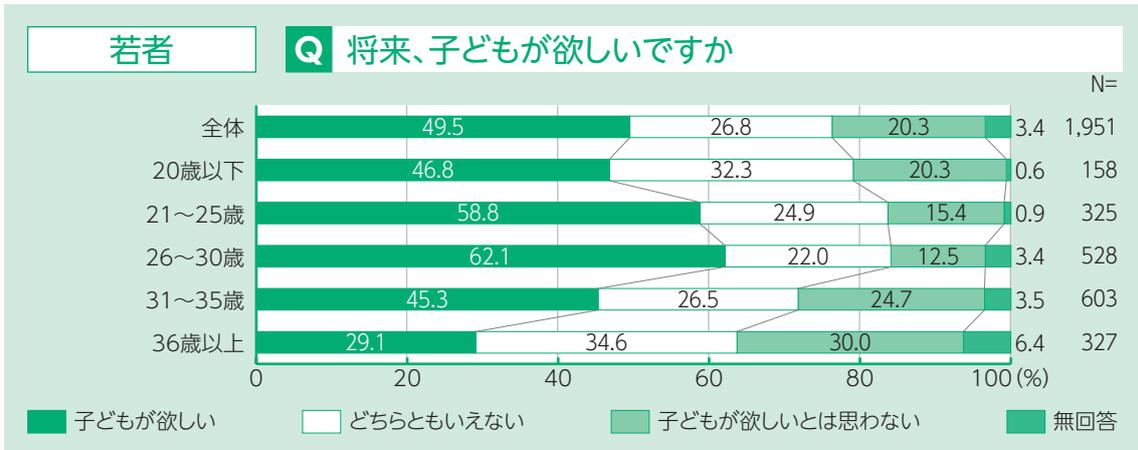
■若者への「結婚について不安に感じていることはありますか」という質問に対して、「適当な相手にめぐり会わない」が41.9%、「自分の時間を失いたくない」が41.0%、「結婚後の生活資金が足りないと思う」が37.4%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

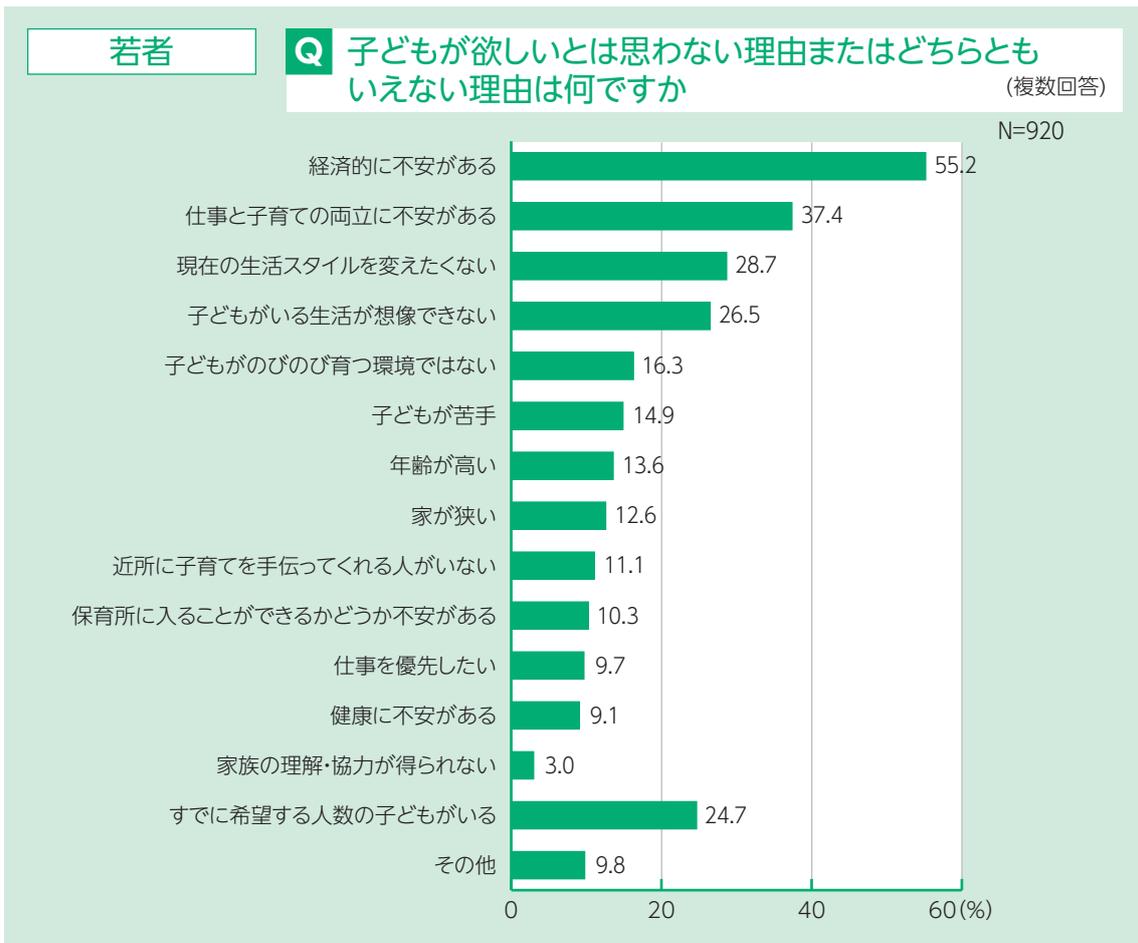


■若者への「将来、子どもが欲しいですか」という質問に対して、全体では、「子どもが欲しい」が49.5%でした。

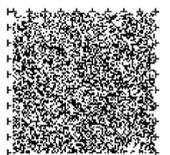


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

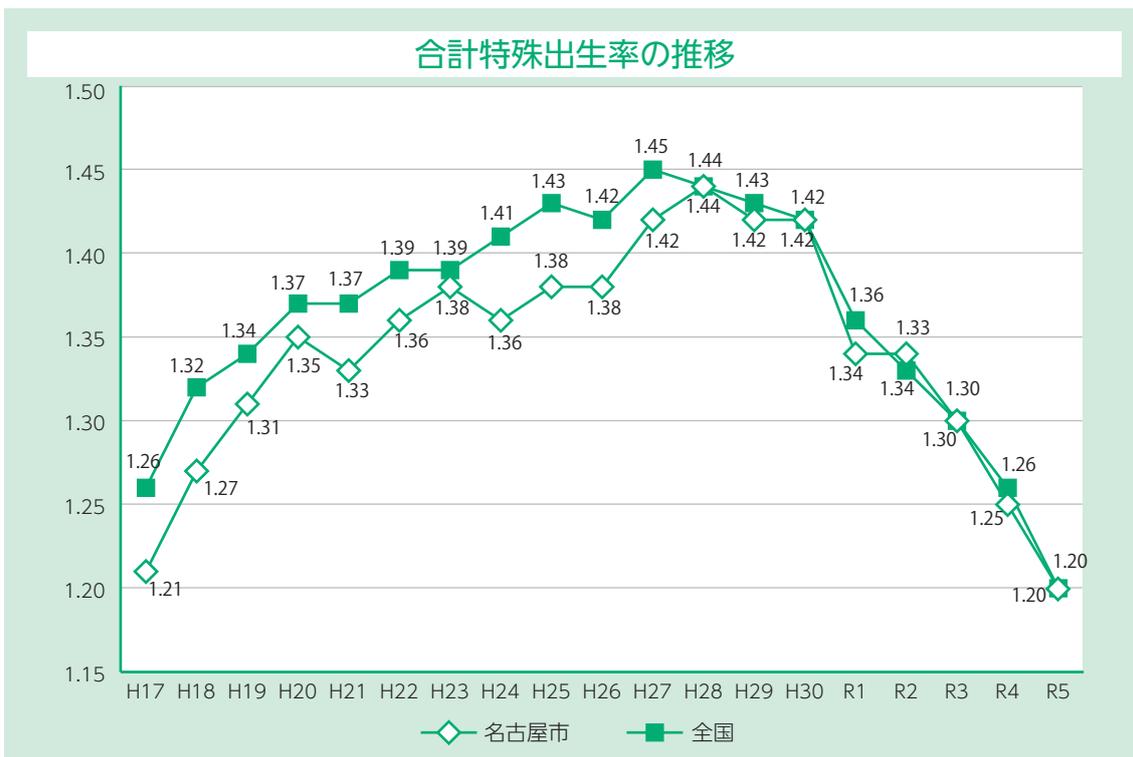
■若者への「子どもが欲しいとは思わない理由またはどちらともいえない理由は何ですか」という質問に対して、「経済的に不安がある」が55.2%、「仕事と子育ての両立に不安がある」が37.4%、「現在の生活スタイルを変えたくない」が28.7%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 若者調査)

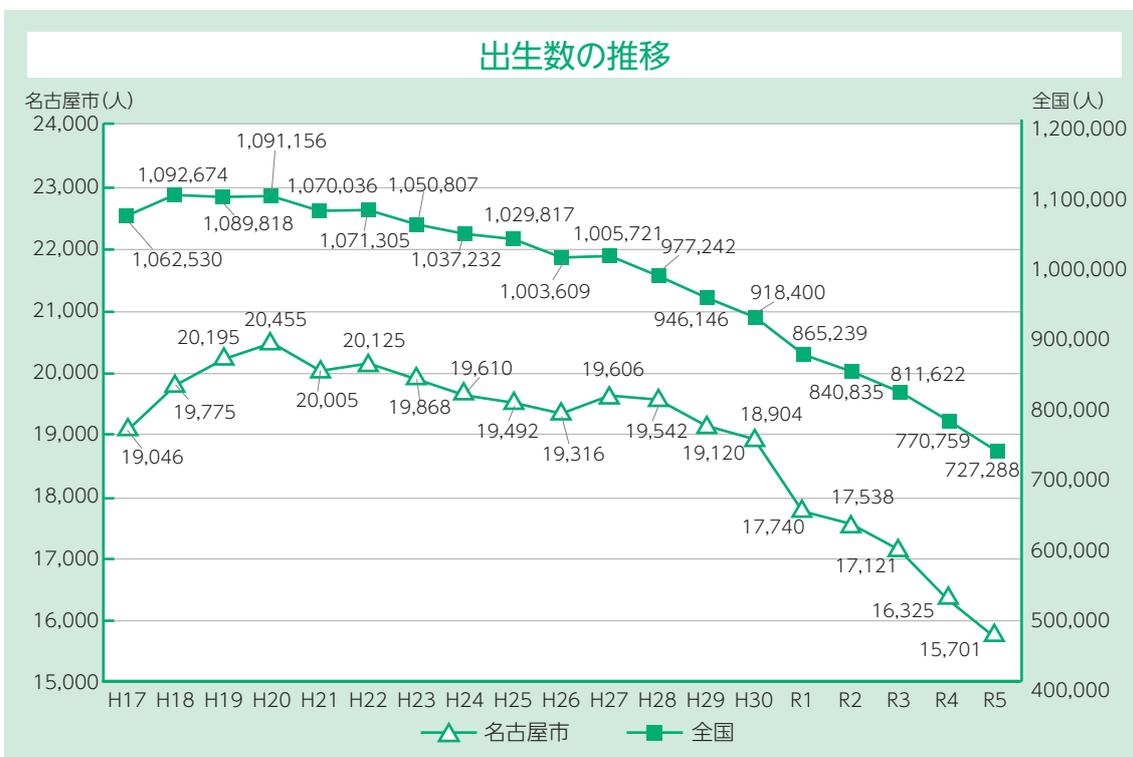


■本市の合計特殊出生率は、平成 28 年をピークに下降傾向となっています。

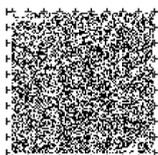


(出典:厚生労働省「人口動態統計」)

■本市の出生数は、平成 15 年頃から 19,000 人～20,000 人で推移していましたが、近年減少傾向にあり、令和 5 年の出生数は 15,701 人となっています。

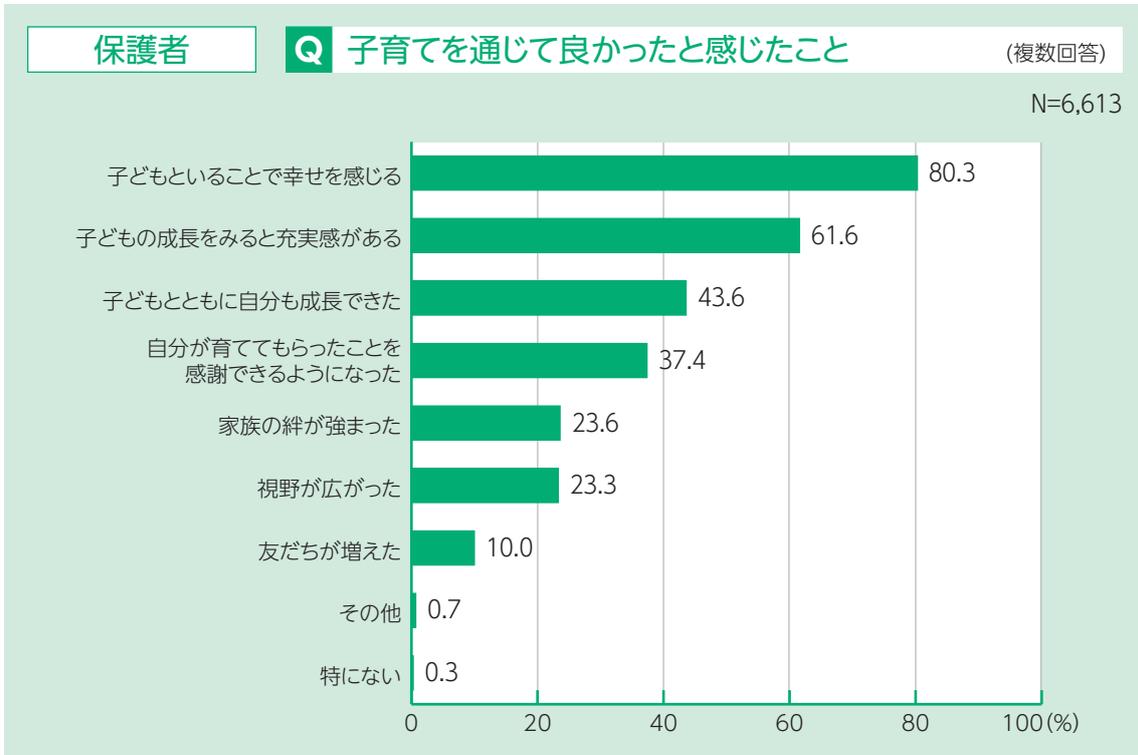


(出典:厚生労働省「人口動態統計」)

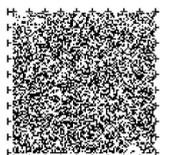


(2) 子育て家庭を取り巻く現状

■ 保護者に子育てを通じて良かったと感じたことを聞いたところ、「子どもといることで幸せを感じる」が80.3%、次いで「子どもの成長をみると充実感がある」が61.6%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)



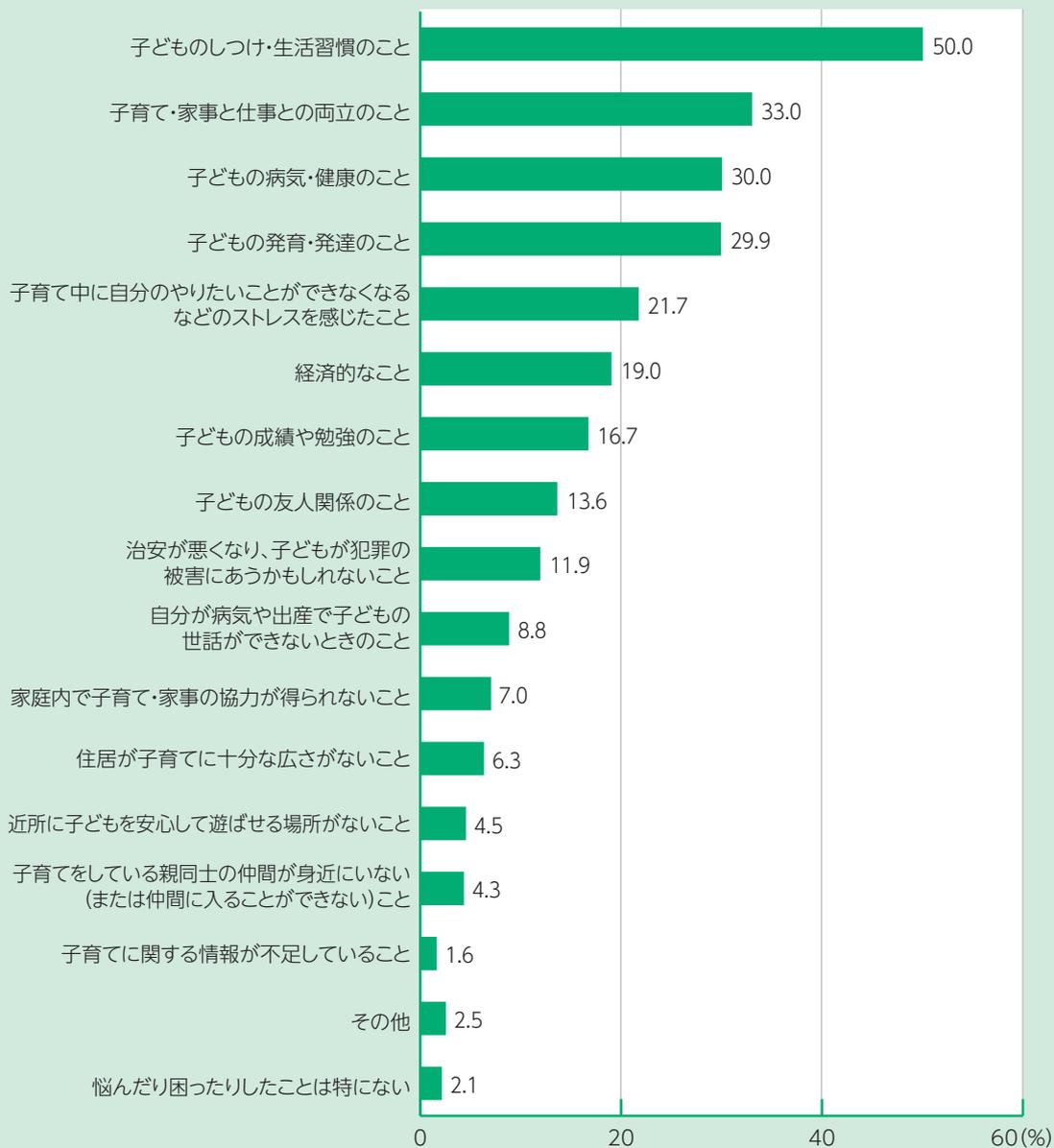
■ 保護者への「どんなことに悩んだり、不安に感じたり、困ったりしましたか」という質問に対して、「子どものしつけ・生活習慣のこと」が50.0%、「子育て・家事と仕事との両立のこと」が33.0%でした。

保護者

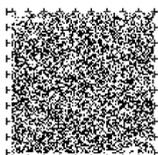
Q どんなことに悩んだり、不安に感じたり、困ったりしましたか

(複数回答)

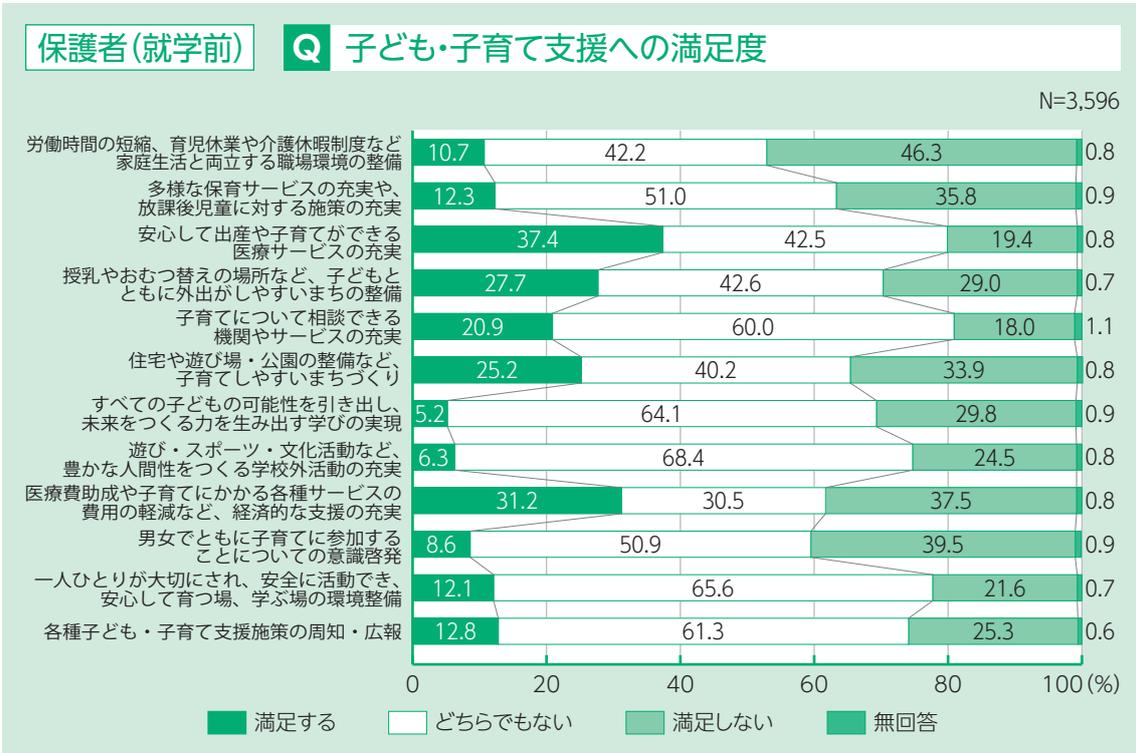
N=6,613



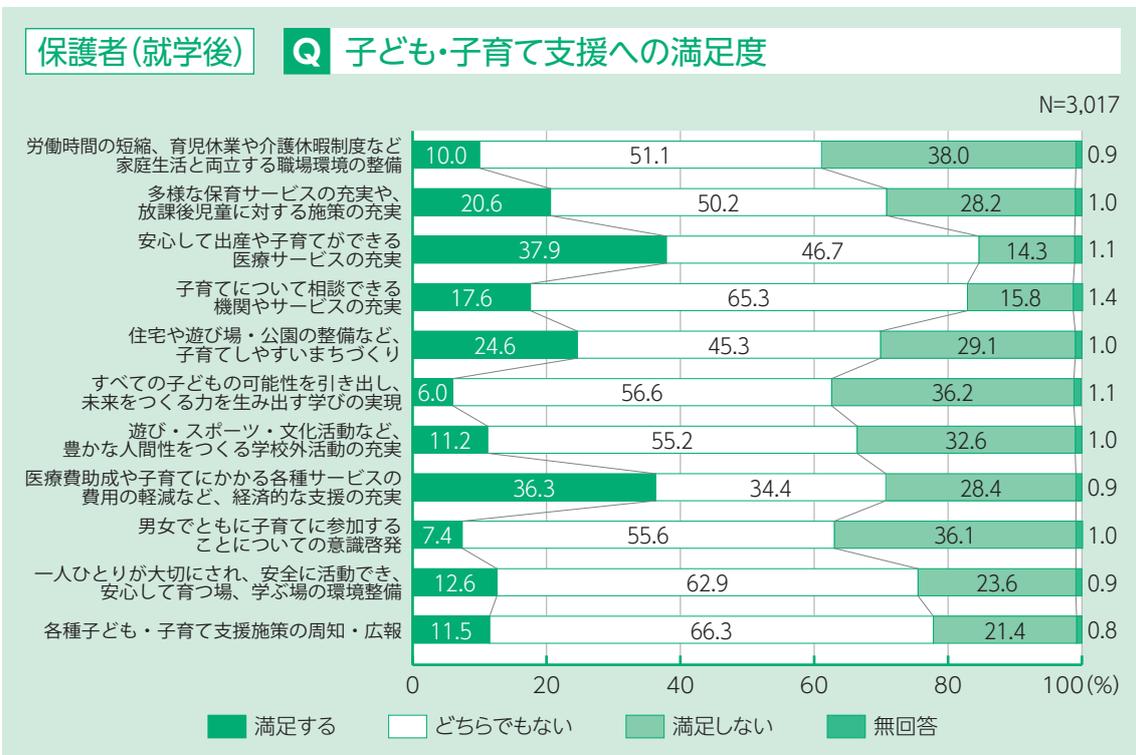
(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)



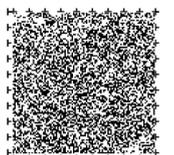
■子ども・子育て支援について、「満足する」の割合が高いのは、「安心して出産や子育てができる医療サービスの充実」でした。一方、「満足しない」の割合が高いのは、「労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備」でした。



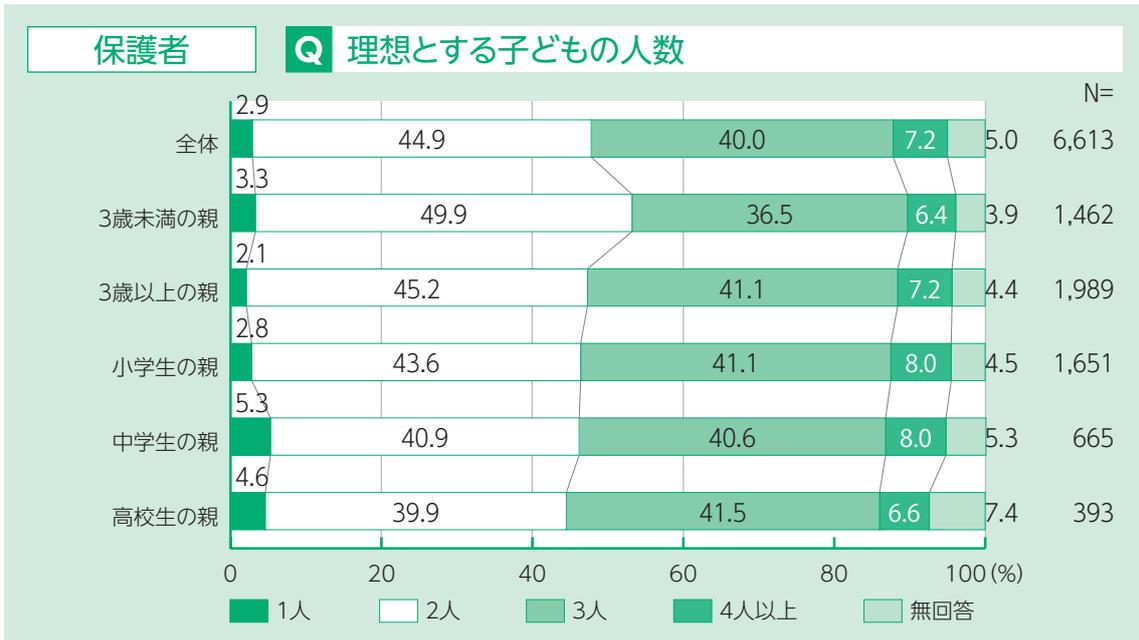
Ⅲ 現状と課題



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

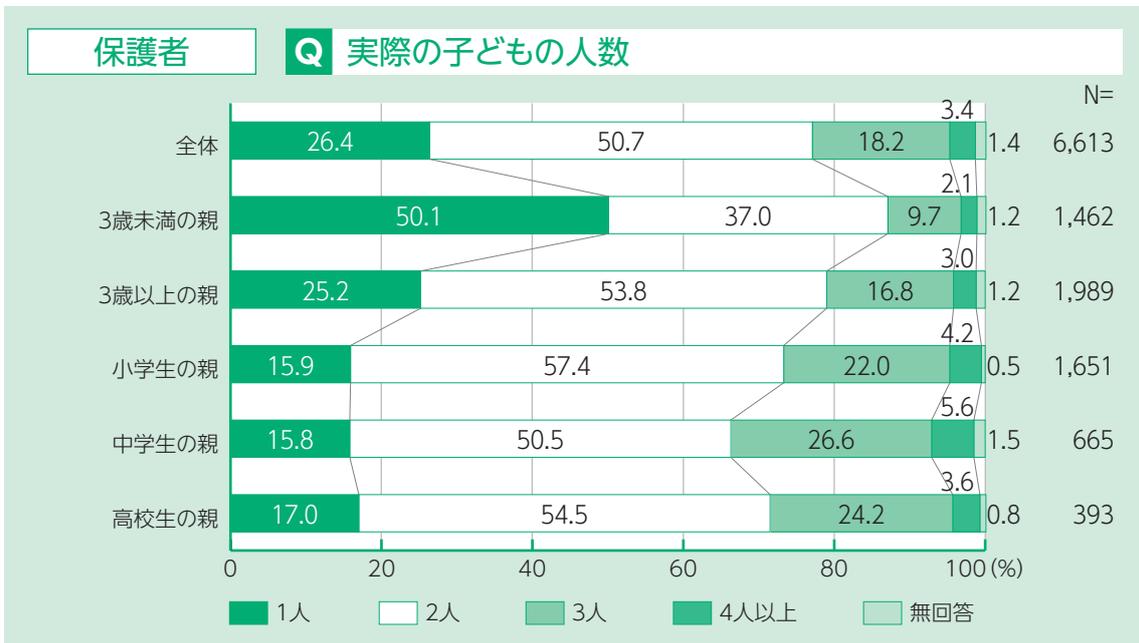


■ 保護者に理想とする子どもの人数を聞いたところ、全体では、「2人」が44.9%、「3人」が40.0%でした。



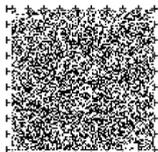
(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

■ 保護者に実際の子どもの人数を聞いたところ、全体では、「2人」が50.7%、「1人」が26.4%でした。

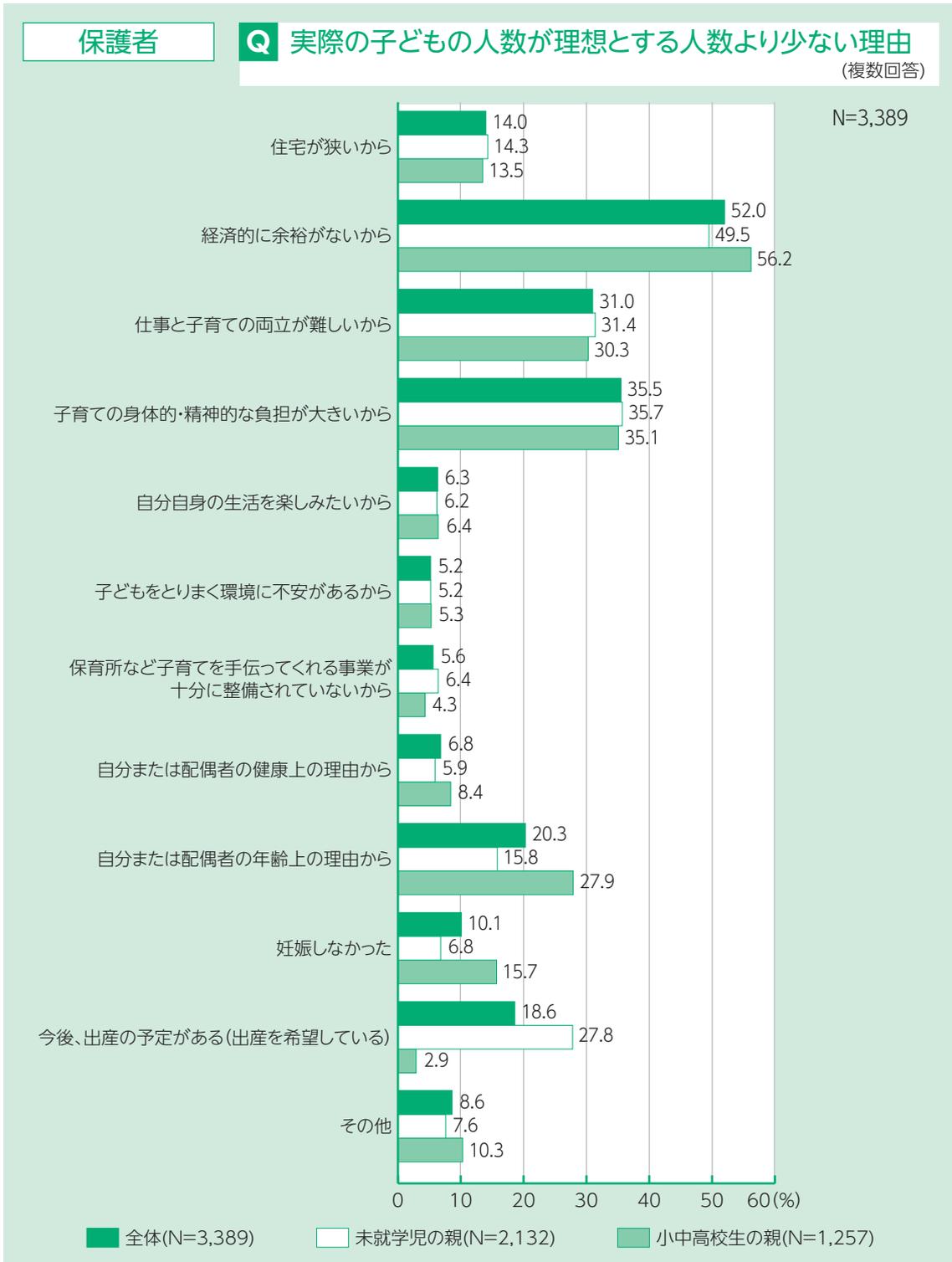


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

理想とする子どもの人数の平均 2.54 人に対して、実際の子どもの人数の平均は 1.98 人と理想より低い値となっています。

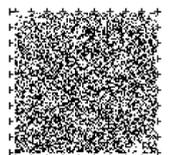


■保護者に実際の子どもの人数が理想とする人数より少ない理由を聞いたところ、全体では、「経済的に余裕がないから」が52.0%、「子育ての身体的・精神的な負担が大きいから」が35.5%、次いで「仕事と子育ての両立が難しいから」が31.0%でした。

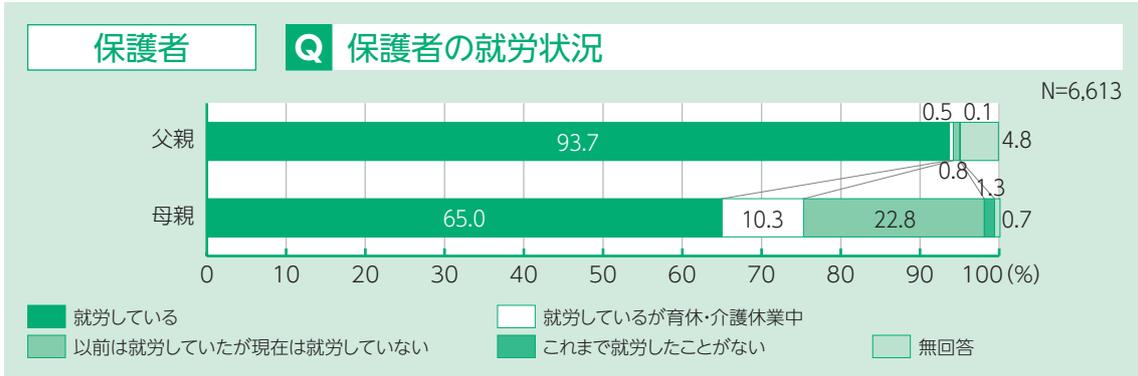


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

Ⅲ 現状と課題

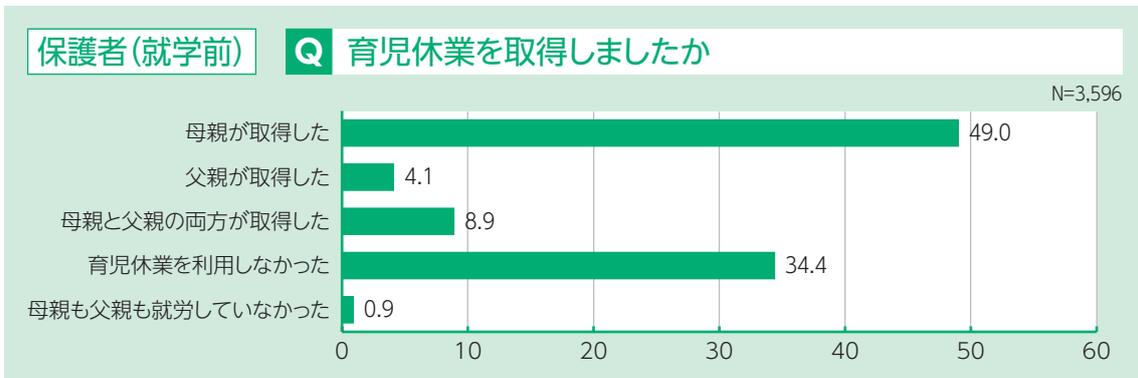


■保護者の就労状況について、父親は「就労している」が93.7%、母親は「就労している」が65.0%でした。



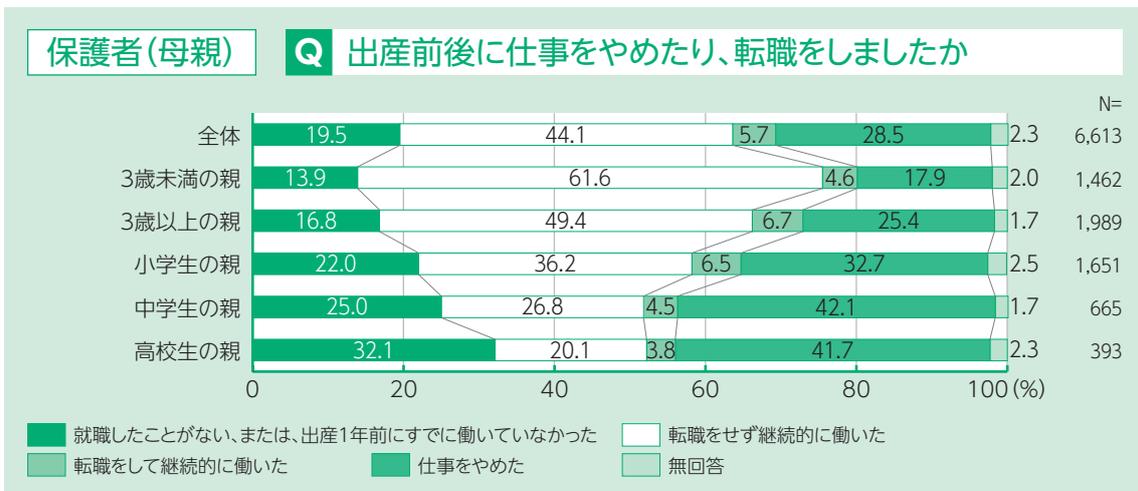
(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

■保護者への「母親または父親が育児休業を取得しましたか」という質問に対して、「母親が取得した」が49.0%、「育児休業を利用しなかった」が34.4%でした。

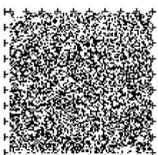


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

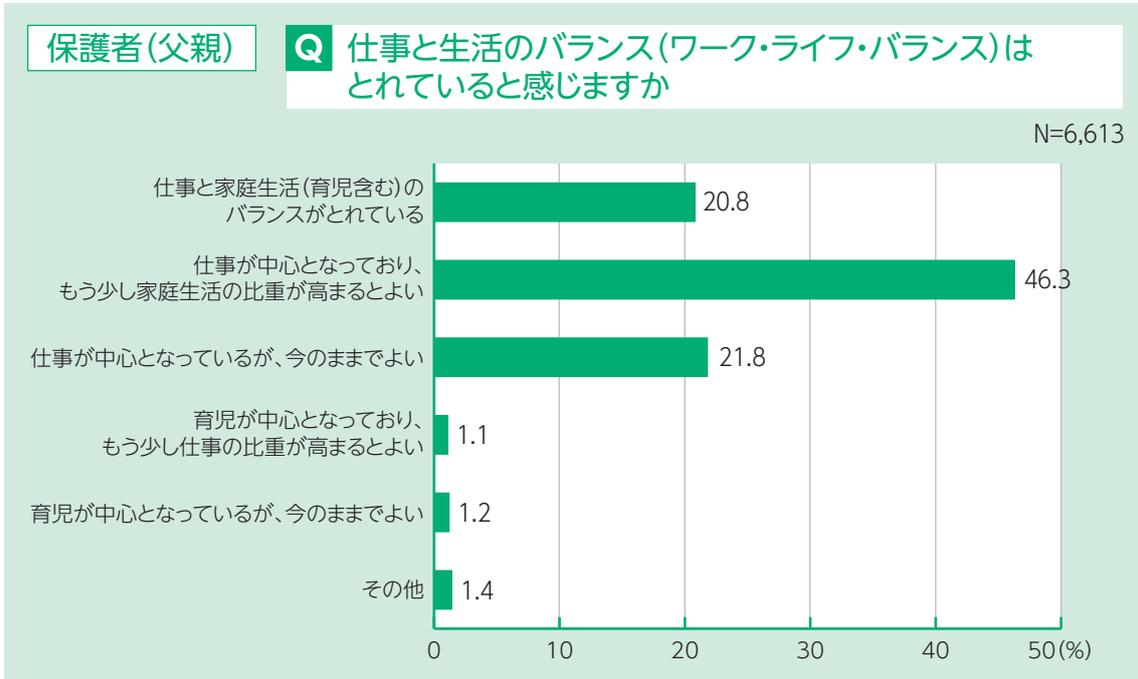
■母親への「出産前後（それぞれ1年以内）に仕事をやめたり、転職をしましたか」という質問に対して、全体では、「転職をせず継続的に働いた」が44.1%、「仕事をやめた」が28.5%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

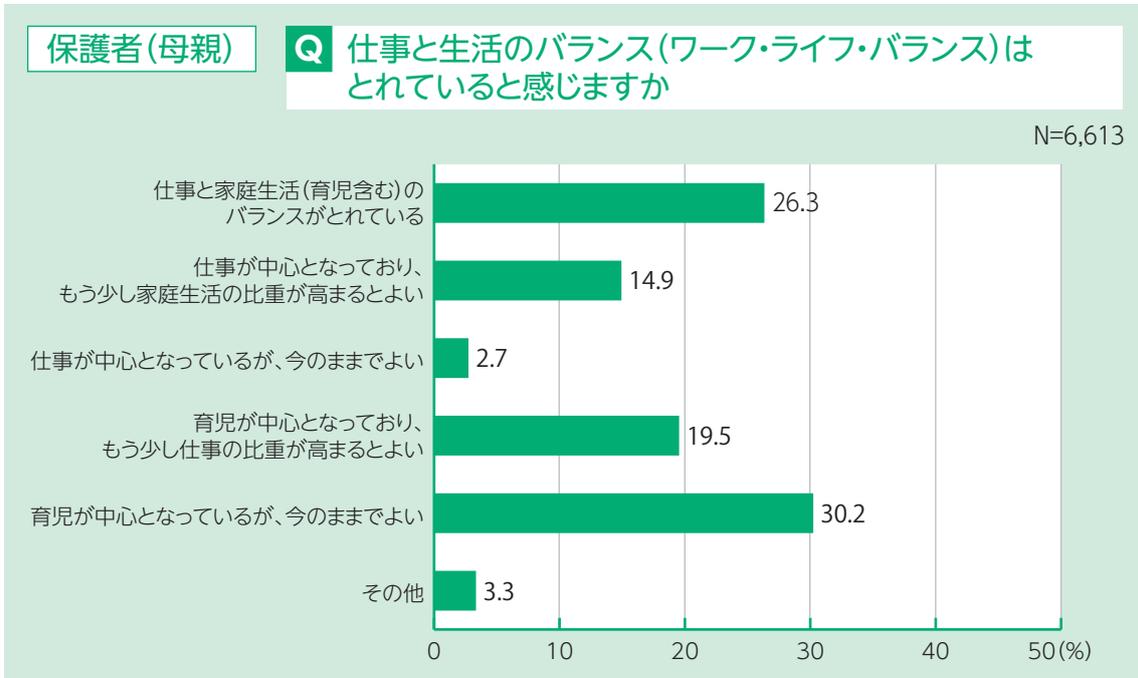


■ 父親への「仕事と生活のバランス (ワーク・ライフ・バランス) はとれていると感じていますか」という質問に対して、「仕事を中心となっており、もう少し家庭生活の比重が高まるとよい」が46.3%でした。

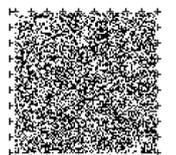


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

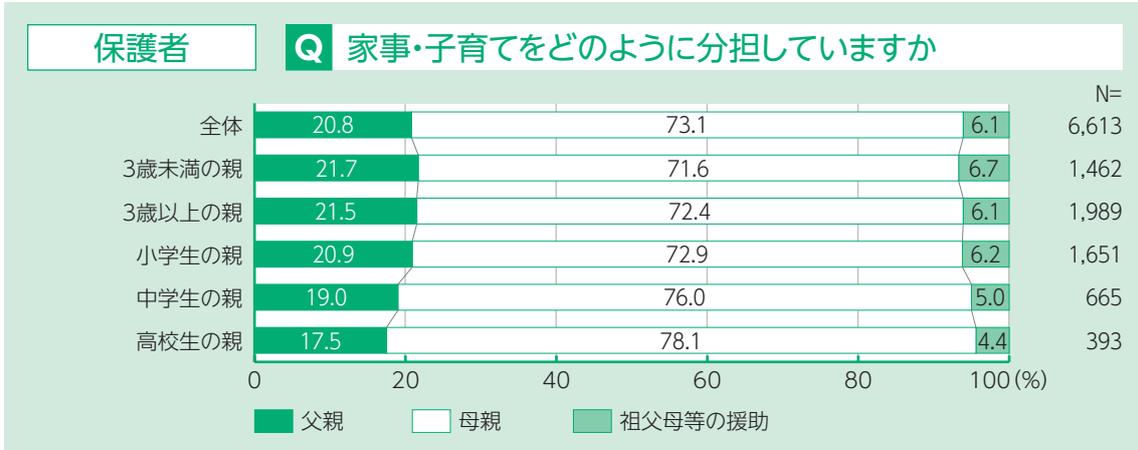
■ 母親への「仕事と生活のバランス (ワーク・ライフ・バランス) はとれていると感じていますか」という質問に対して、「育児を中心となっているが、今のままでよい」が30.2%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

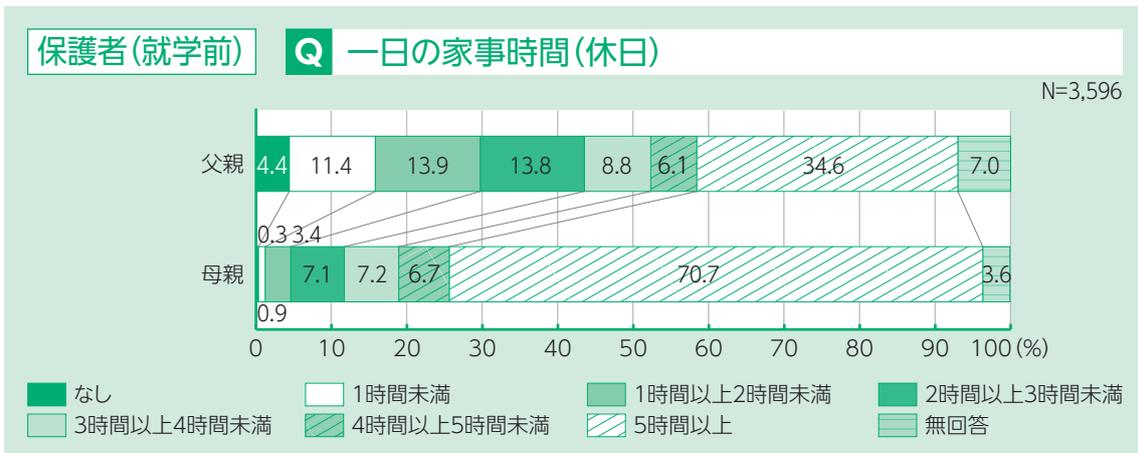
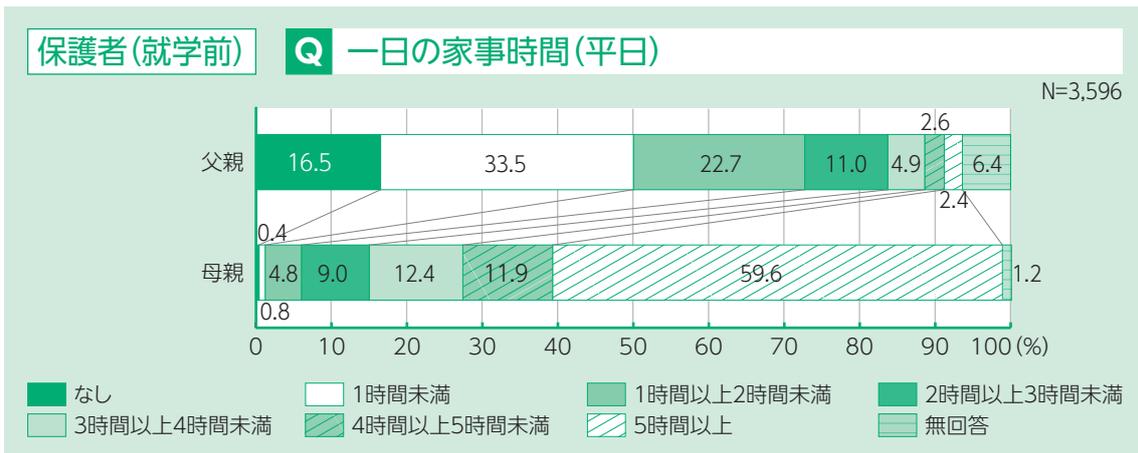


■保護者への「家事・子育てをどのように分担していますか」という質問に対して、子どもの年代に関わらず、「母親」の分担が7割を超えました。

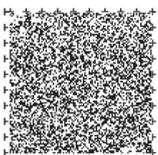


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

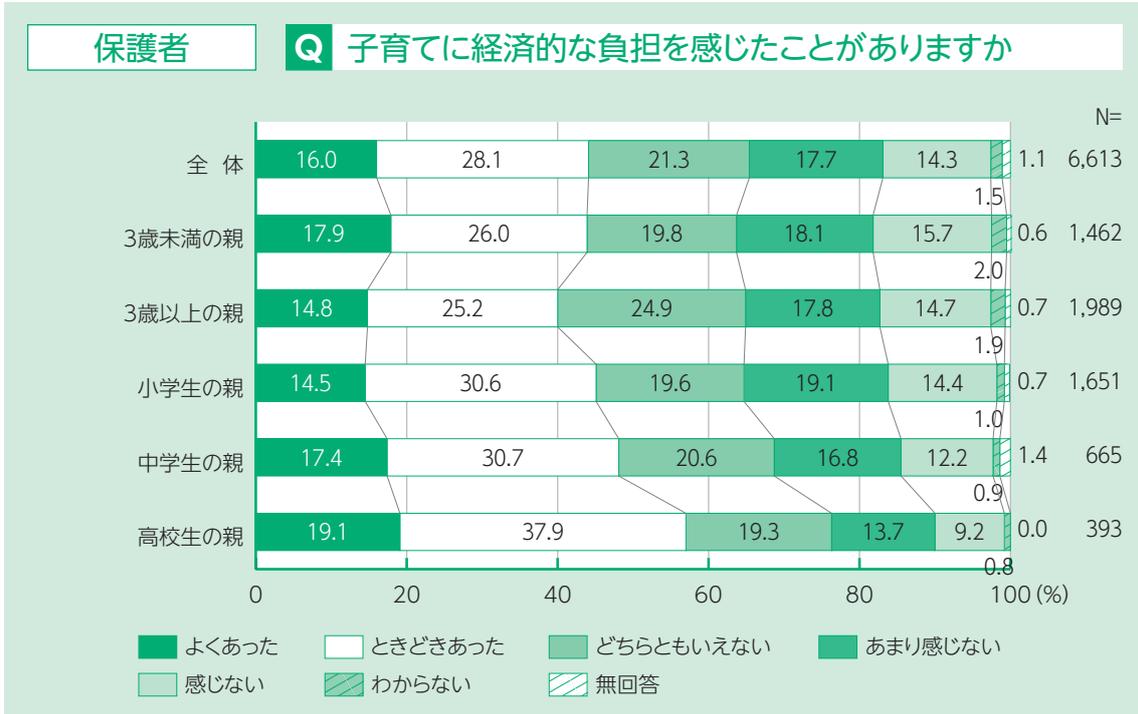
■保護者への「一日のうち、家事（育児含む）に要する時間はどれくらいですか」という質問に対して、平日は、父親は「1時間未満」が33.5%、母親は「5時間以上」が59.6%でした。休日は、父親、母親ともに「5時間以上」の割合が最も高くなりました。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

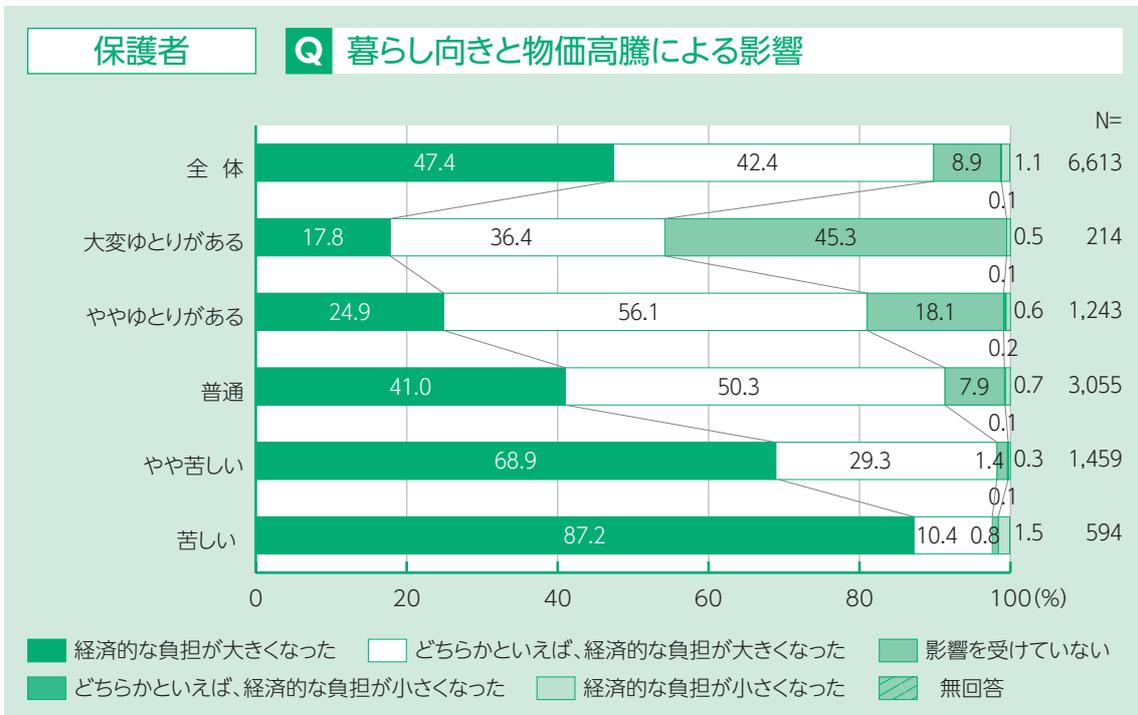


■保護者への「子育てに経済的な負担を感じたことがありますか」という質問に対して、全体では、「よくあった」が16.0%、「ときどきあった」が28.1%でした。

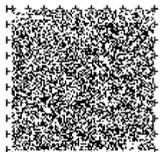


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

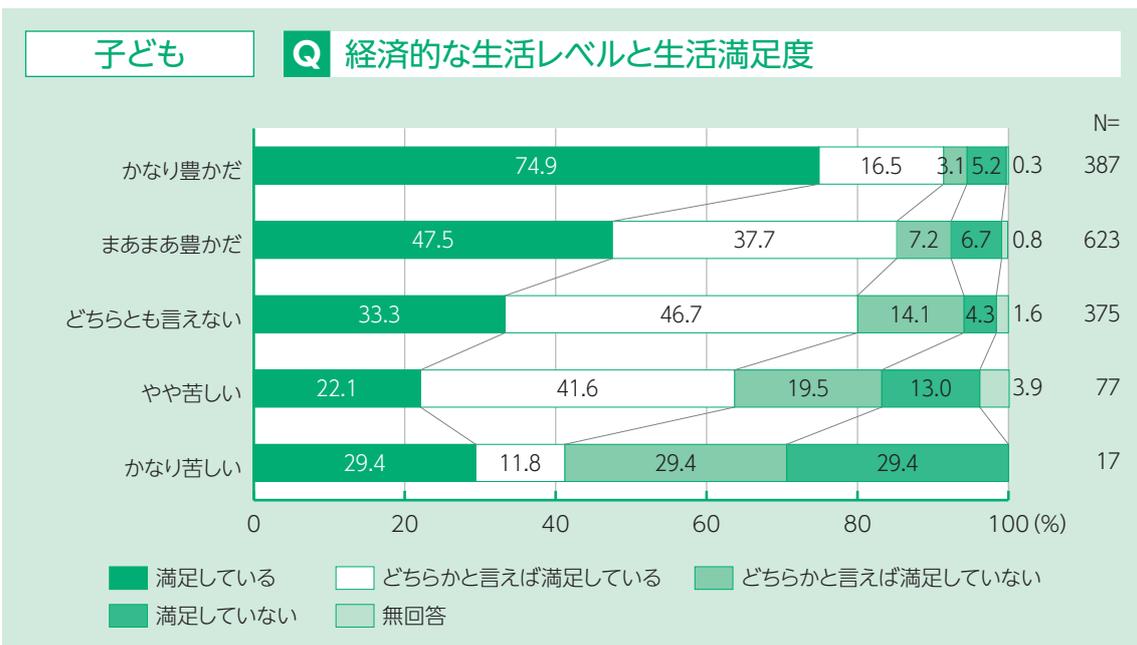
■世帯の暮らし向きを「苦しい」と考えている保護者ほど、物価高騰により「経済的な負担が大きくなった」の割合が高くなりました。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)



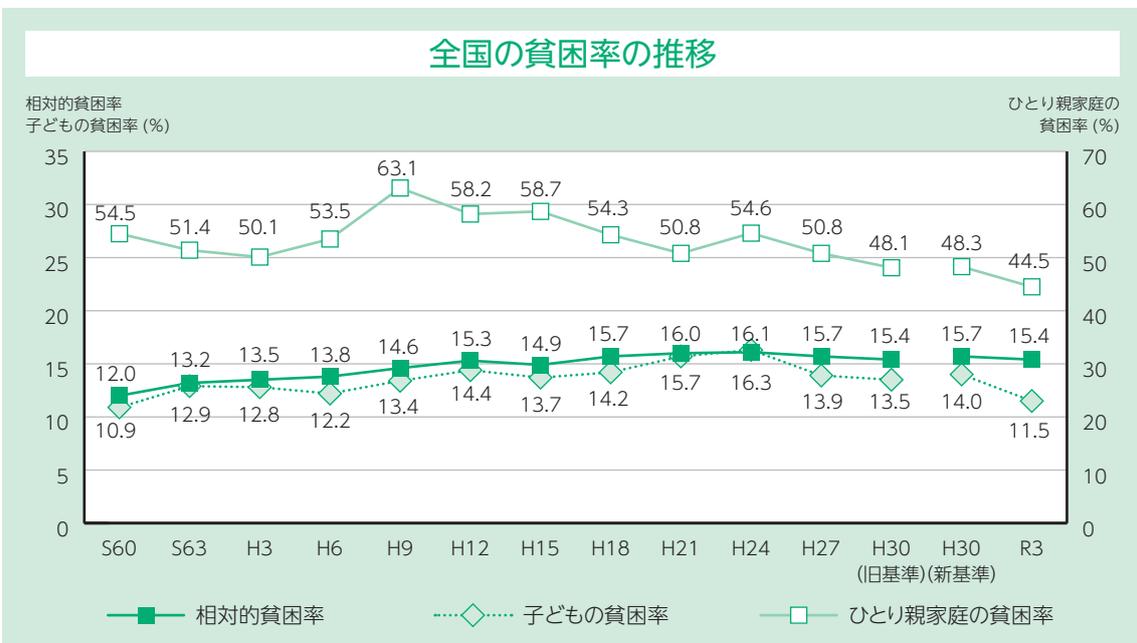
■ 経済的な生活レベルを豊かに感じている子どもの方が、生活に満足している傾向が見られました。



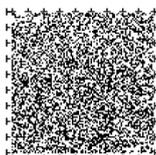
(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 子ども調査)

■ 全国の子どもの貧困率は、平成24年をピークに下降傾向にあります。また、大人が一人で子どもを養育している家庭の相対的貧困率は44.5%であり、ひとり親世帯は経済的に困窮している割合が高くなっています。

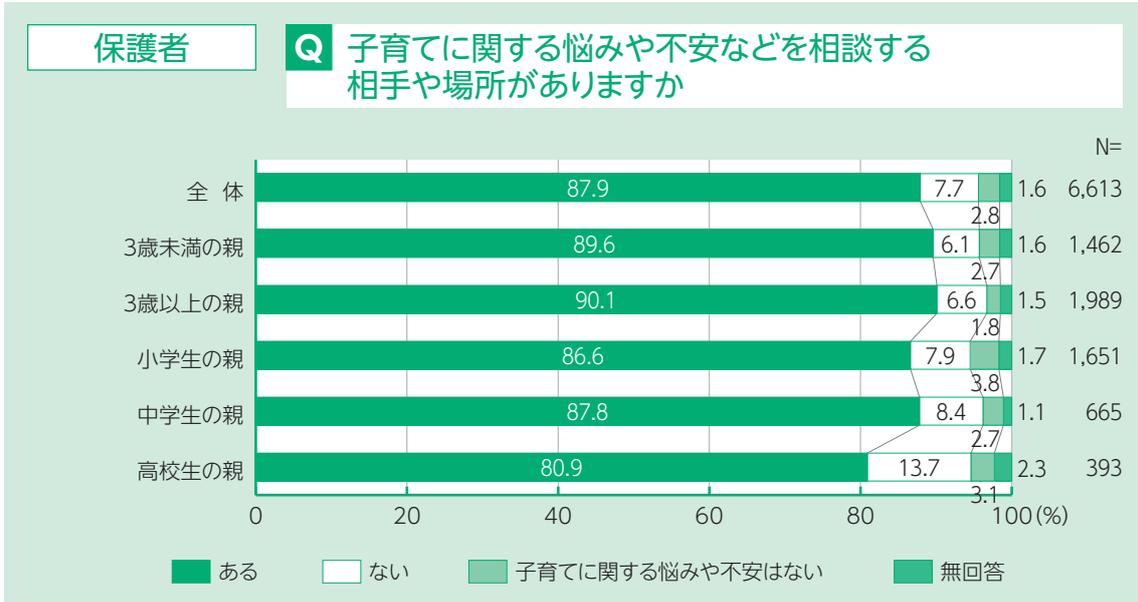
※令和3年の貧困線は127万円。貧困線とは、世帯収入から国民一人ひとりの所得を計算して順番に並べ、ちょうど中央の人の所得の半分の額をいい、この貧困線に届かない人の割合が「相対的貧困率」となります。
 ※平成30年の「新基準」及び令和3年は、新たな作成基準に基づいて算出した数値。



(出典:厚生労働省「国民生活基礎調査」(令和4年度))

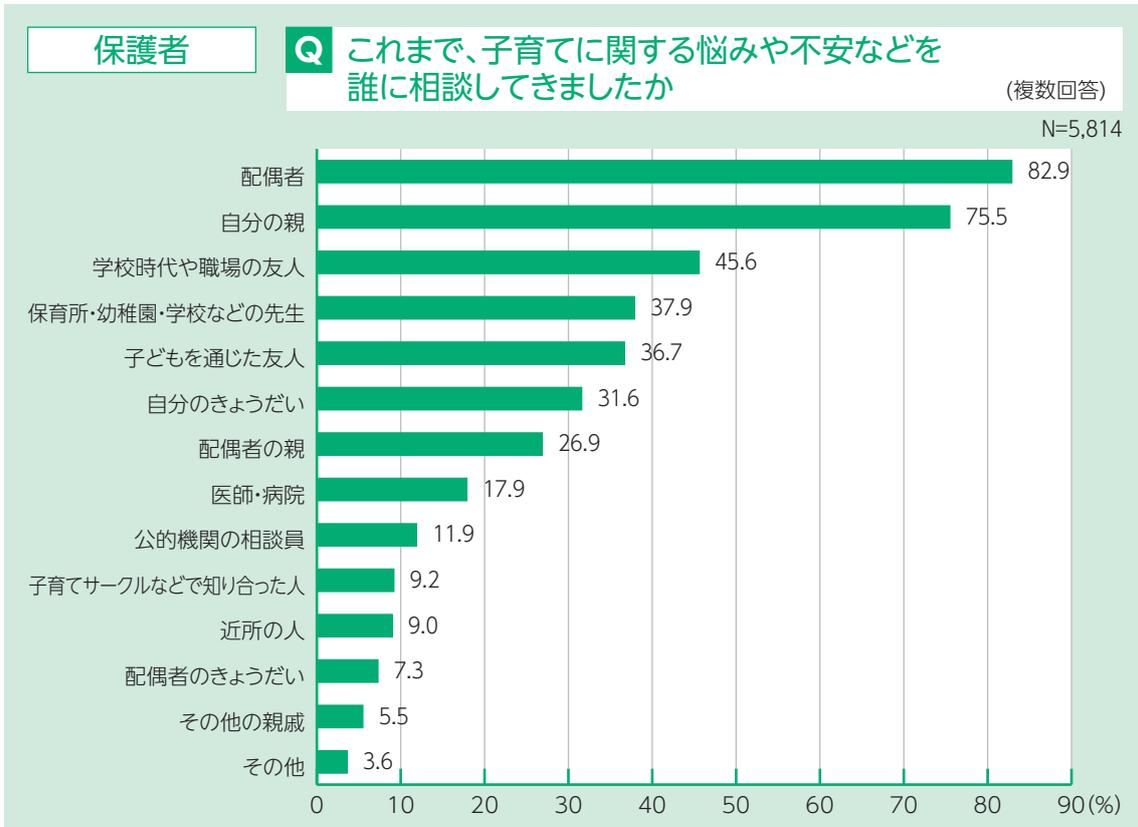


■保護者への「子育てに関する悩みや不安などを相談する相手や場所がありますか」という質問に対して、全体では、「ある」が87.9%、「ない」が7.7%でした。

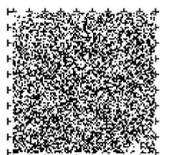


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

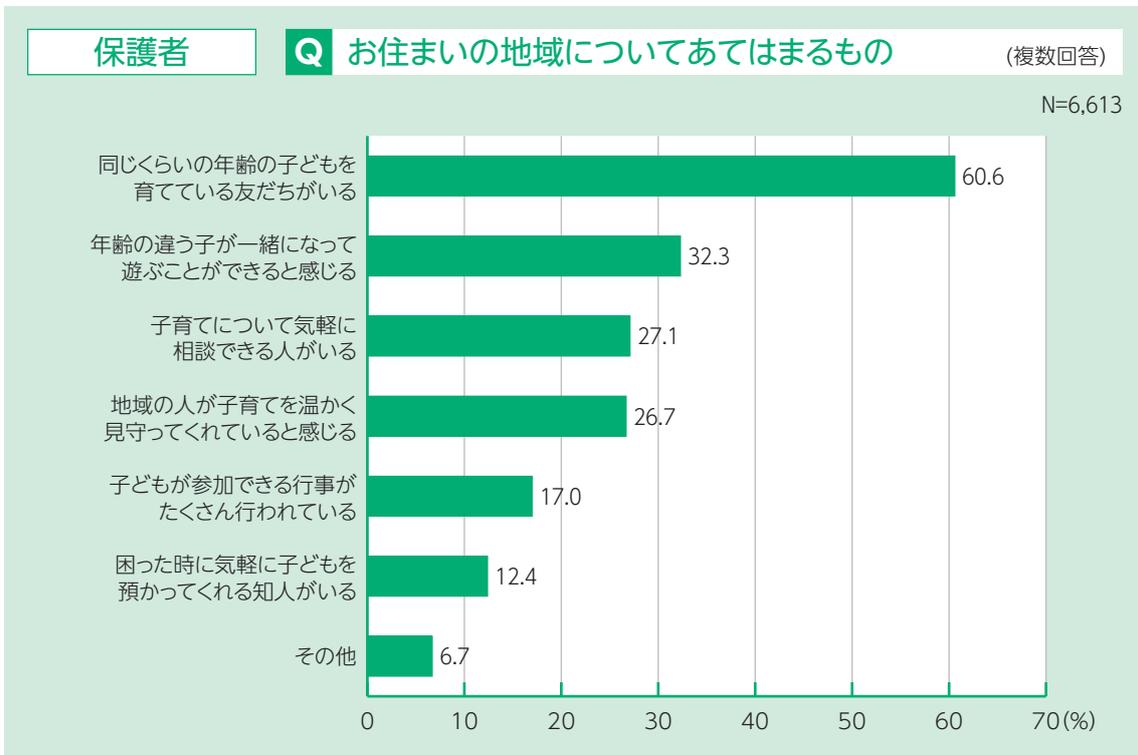
■保護者への「これまで、子育てに関する悩みや不安などを誰に相談してきましたか」という質問に対して、「配偶者」が82.9%、「自分の親」が75.5%でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

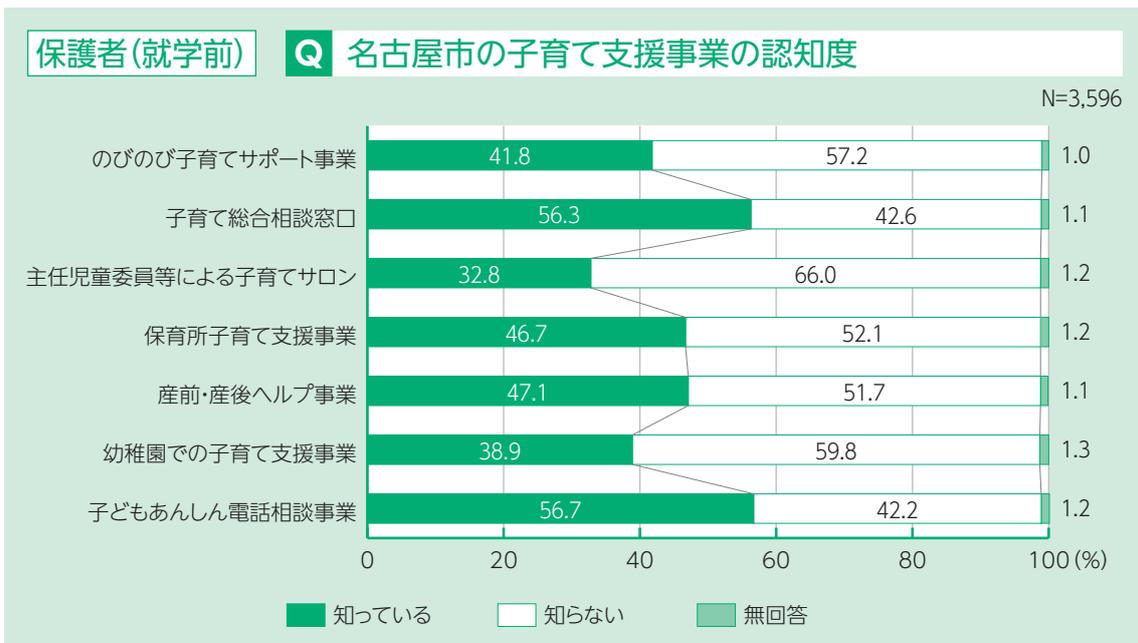


■保護者にお住まいの地域についてあてはまるものを聞いたところ、「同じくらいの年齢の子どもを育てている友だちがいる」が60.6%、次いで「年齢の違う子が一緒になって遊ぶことができると感じる」が32.3%、「子育てについて気軽に相談できる人がある」が27.1%でした。

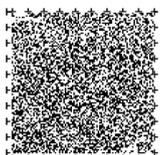


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

■保護者に名古屋市の子育て支援事業を知っているかを聞いたところ、認知度が高い事業は、「子どもあんしん電話相談事業」(56.7%)、「子育て総合相談窓口」(56.3%)でした。



(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

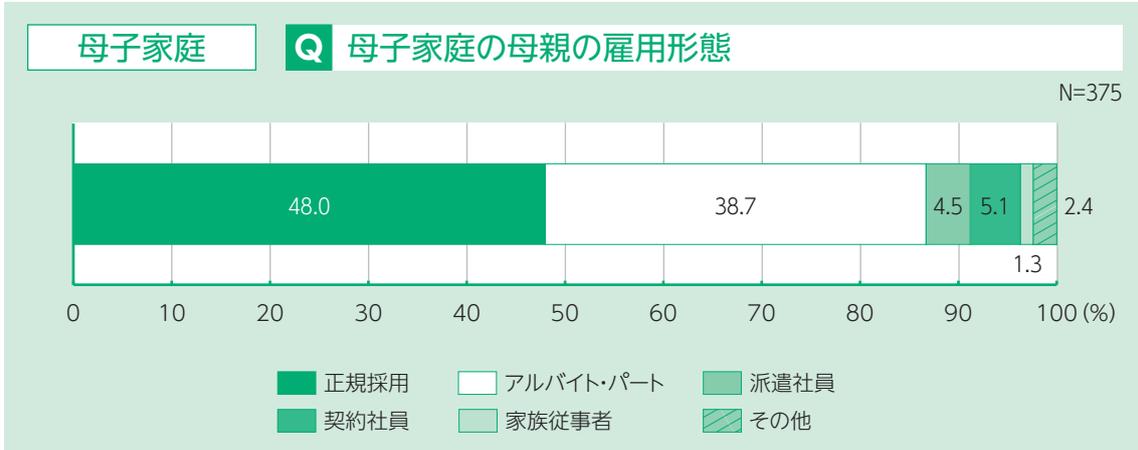
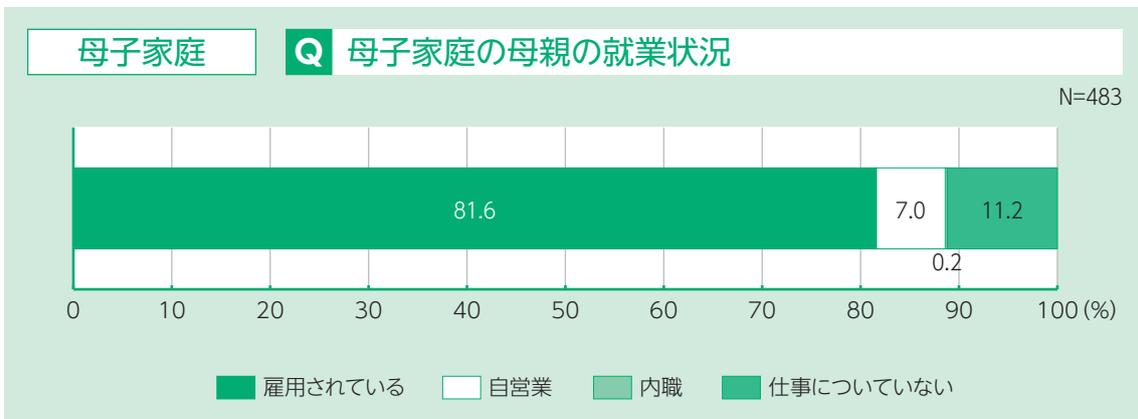


■ 「令和5年度 ひとり親世帯等実態調査」によると、母子家庭及び父子家庭の推計世帯数は、母子家庭 24,820 世帯、父子家庭 2,424 世帯となっています。

	総世帯数	母子家庭		父子家庭		寡婦		寡夫	
		世帯数	出現率 (%)	世帯数	出現率 (%)	世帯数	出現率 (%)	世帯数	出現率 (%)
5年度	1,154,438	24,820	2.15	2,424	0.21	29,785	2.58	12,352	1.07

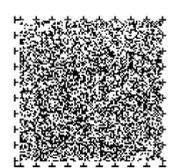
(出典:令和5年度 ひとり親世帯等実態調査)

■ 母子家庭の母親の就業状況については、「雇用されている」が81.6%、「自営業」が7.0%、「内職」が0.2%で、合わせると仕事についている人は88.8%でした。雇用形態については、「正規採用」が48.0%、「アルバイト・パート」が38.7%でした。

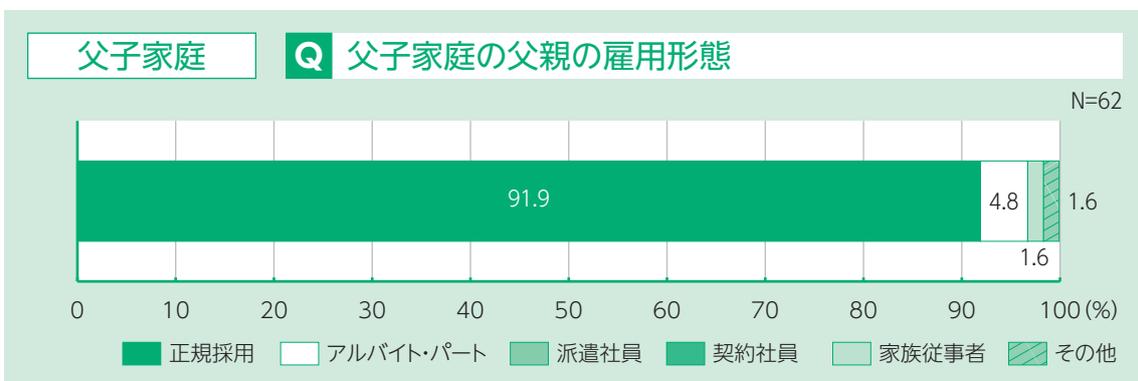
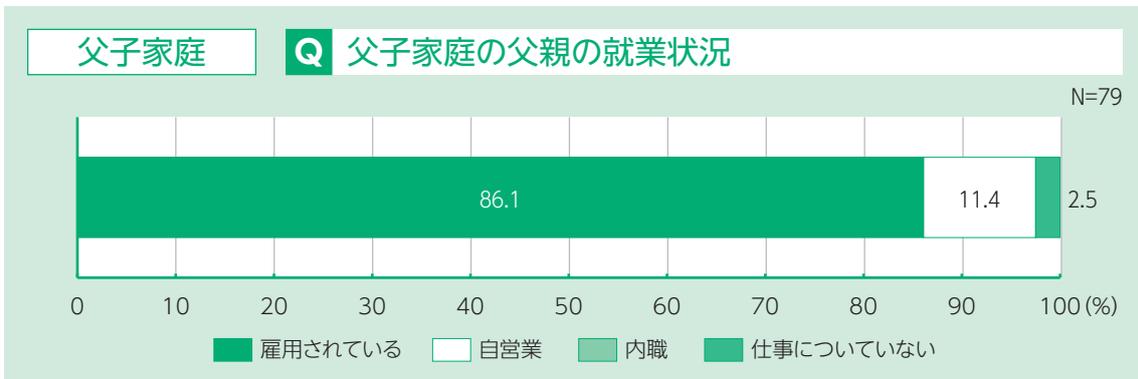


(出典:令和5年度 ひとり親世帯等実態調査)

Ⅲ 現状と課題

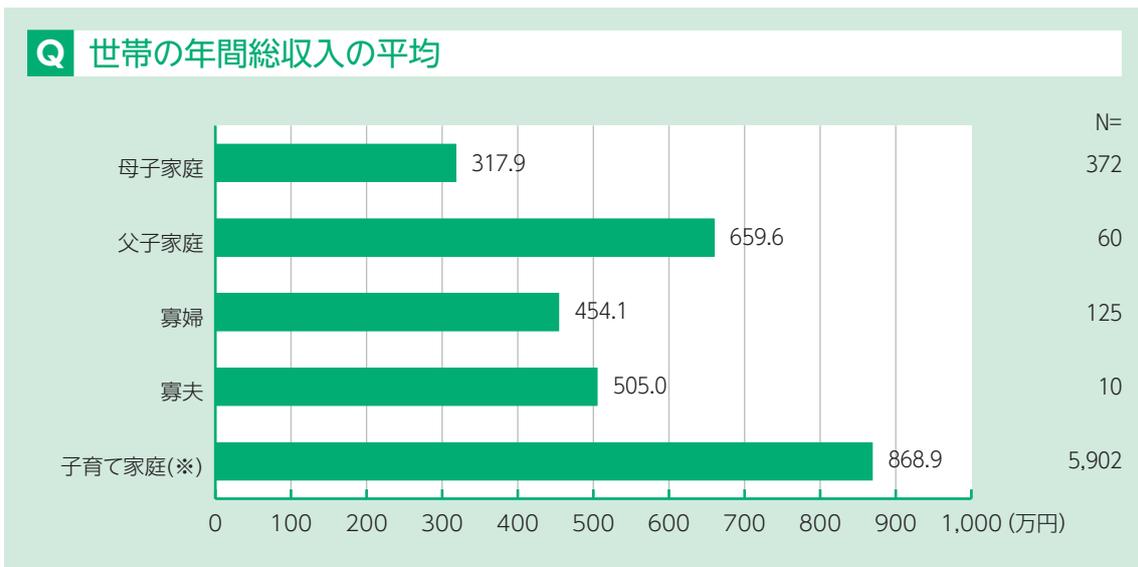


■ 父子家庭の父親の就業状況については、「雇用されている」が86.1%、「自営業」が11.4%で、合わせると仕事についている人は97.5%でした。雇用形態については、「正規採用」が最も多く91.9%でした。



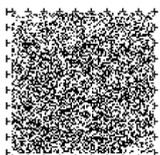
(出典:令和5年度 ひとり親世帯等実態調査)

■ 母子家庭の世帯の年間総収入の平均は317.9万円、父子家庭は659.6万円で、子育て家庭の平均年間総収入と比べると、母子家庭では約4割、父子家庭は約8割でした。



(出典:令和5年度 ひとり親世帯等実態調査)

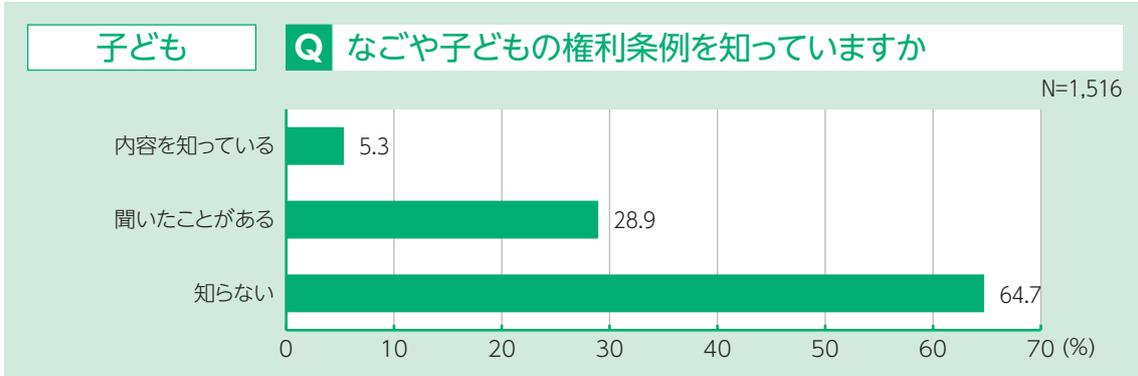
※子育て家庭は「令和5年度 子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査」の保護者調査結果



(3) 社会を取り巻く現状

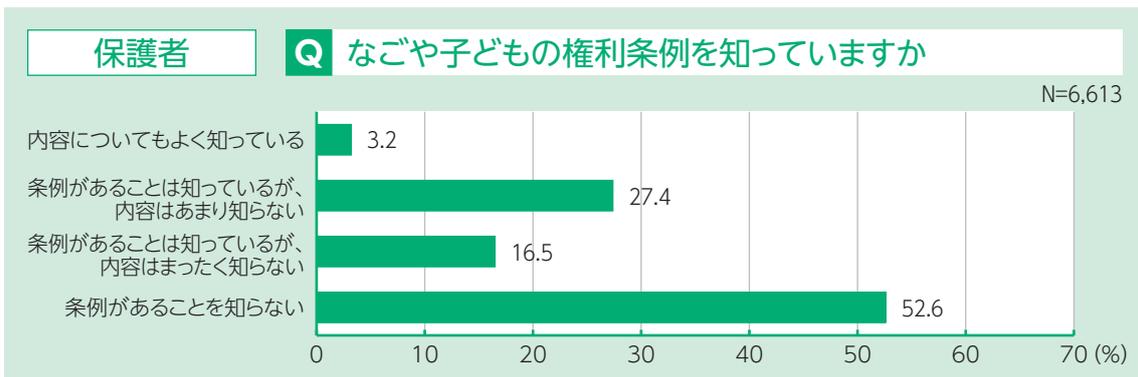
■ なごや子どもの権利条例の認知度

○子どもへの「なごや子どもの権利条例を知っていますか」という質問に対して、「内容を知っている」が5.3%でした。



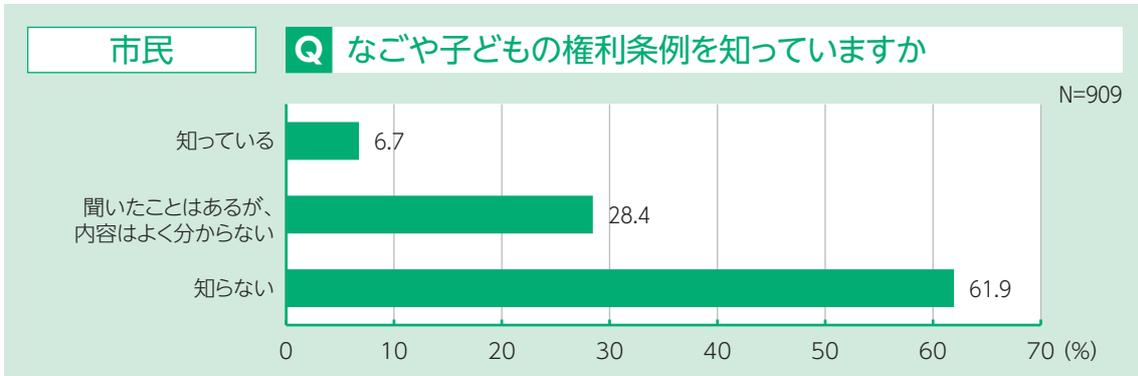
(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 子ども調査)

○保護者への「なごや子どもの権利条例を知っていますか」という質問に対して、「内容についてもよく知っている」が3.2%でした。

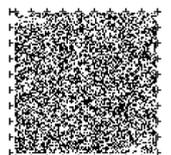


(出典:令和5年度子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査 保護者調査)

○18歳以上の市民への「なごや子どもの権利条例を知っていますか」という質問に対して、「知っている」が6.7%でした。

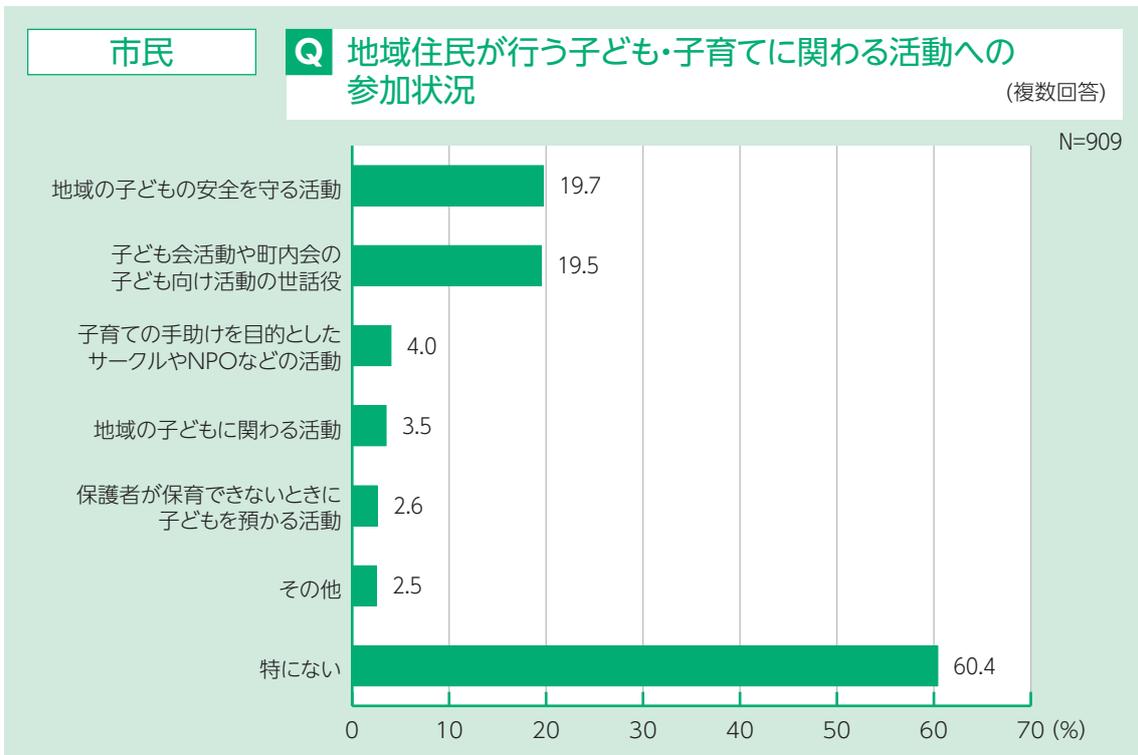


(出典:令和5年度 第2回市政アンケート)



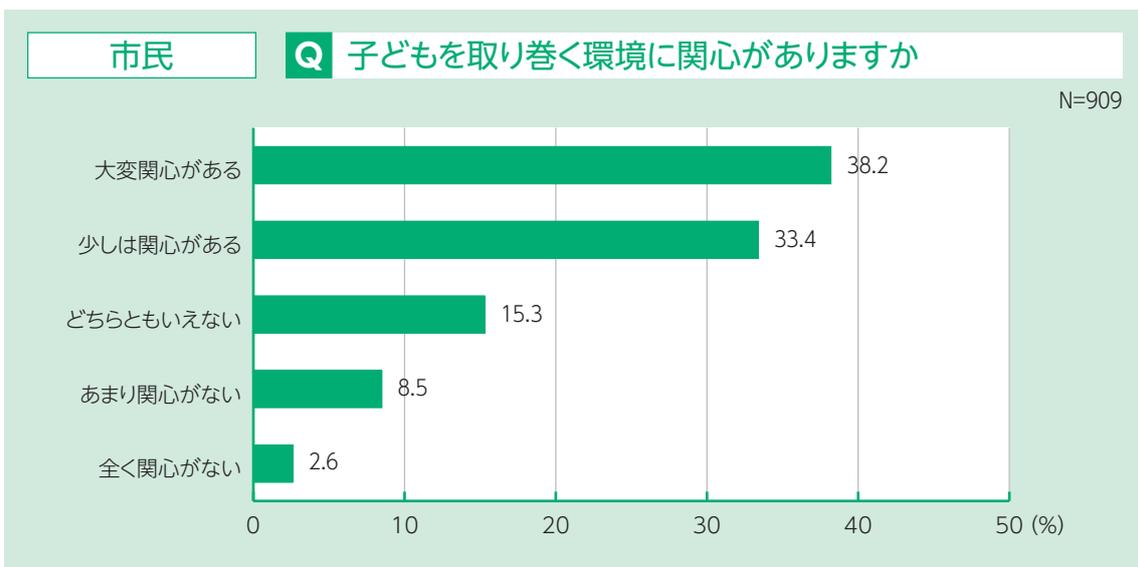
Ⅲ 現状と課題

■ 18歳以上の市民に、地域住民が行う子ども・子育てに関わる活動への参加状況について聞いたところ、「地域の子どもの安全を守る活動」が19.7%、「子ども会活動や町内会の子ども向け活動の世話役」が19.5%でした。一方、「特にない」は60.4%でした。



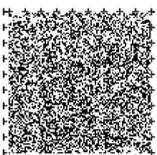
(出典:令和5年度 第2回市政アンケート)

■ 18歳以上の市民への「子どもを取り巻く環境に関心がありますか」という質問に対して、「大変関心がある」が38.2%、「少しは関心がある」が33.4%でした。



(出典:令和5年度 第2回市政アンケート)

注) アンケート調査の結果について、積み上げグラフ以外は無回答の表示を省略しています



② 現状から見える主な課題

(1) 子ども

■ 体験・交流の場や機会の提供

- 少子化や核家族化、新型コロナウイルス感染症流行の影響等により子どもの体験活動や交流の機会が減少傾向にあることから、その機会の重要性を改めて認識した上で、体験・交流の機会をつくっていくことが重要です。
- 子どもが遊びや体験活動、さまざまな年齢の子どもや地域の大人との交流を通して、社会性を育み、自己肯定感を高められるよう、多様な体験・交流の場や機会を提供する取り組みが求められています。
- 子どもがそれぞれの状況に応じて、多様な体験や交流ができるよう、既存の地域資源もいかした場や機会を提供していく必要があります。

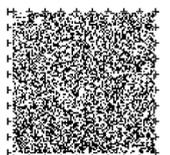
■ 不登校児童生徒への対応

- 不登校の要因はさまざまに複雑に関わり合う場合が多いことから、子ども一人ひとりに向き合い、きめ細かな支援を充実させる必要があります。
- すべての子どもには学ぶ権利があり、一人ひとりの状況に応じた学びの機会が保障されることが重要です。さまざまな理由で学校に通えていないなど、子どもの個々の状況に応じた学びや居場所を確保するため、インターネットの活用も含めた多様な支援を進めていく必要があります。

(2) 子ども・若者

■ 子ども・若者の自殺対策

- 子ども・若者の自殺者数が高い水準で推移していることは喫緊の課題であり、誰も自殺に追い込まれることのないよう、自殺予防教育や自殺リスクの早期発見、相談支援など、総合的な取り組みを進めていくことが必要です。
- 子どもや若者が抱える困難や課題は、多様な要因が複合的に重なり合い、さまざまな形で表出するものであることから、表出している課題を早期に把握し、適切な支援につなげることが重要です。また、その課題の背景にある困難を解消する重層的な支援が求められています。



(3)若者

■居場所の提供

- 居場所を持つことは、若者の自己肯定感などにも関わる重要な要素である一方で、地域のつながりの希薄化や新型コロナウイルス禍の接触制限などの影響により、若者が居場所を持つことが難しい状況であったことの影響が現在も続いていることを踏まえ、すべての若者が居場所を持つことができるよう支援していくことが求められています。
- 若者の価値観が多様化する中で、物理的な場所だけでなく、時間や人との関わりも含めて、安全に安心して過ごせる居場所を持てるよう、多様なニーズに応じた居場所づくりを進めていく必要があります。

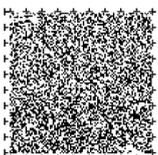
■将来への希望をかなえる支援

- 若者が結婚や妊娠・出産、子育て、仕事を含めて、自らの将来を見通し希望を抱くことができるよう、ライフステージに応じたキャリア形成やライフデザインを支援する取り組みが求められています。
- 結婚や子どもを持つことを希望する若者が、希望するタイミングで、その希望をかなえられるような支援が必要です。
- 多様な価値観・考え方があることを前提として、若者がどのような選択をしても、その決定を尊重し、それぞれの希望を社会全体で応援するという意識を醸成していくことも重要です。

(4)子育て家庭

■ワーク・ライフ・バランスの推進

- 子どもを育てる保護者の就労状況や就労形態が大きく変化していることを踏まえ、子育てしながら就労する人が柔軟に働くことができ、男女ともに仕事と家庭生活の両立が可能な環境の整備を進めていくことが必要です。
- 家庭における家事・育児の役割分担が性別で偏ることによって、保護者がワーク・ライフ・バランスの不满を抱くことがないように、子育て家庭だけでなく、地域や企業等を含めた社会全体の意識を醸成していくことも求められています。



■経済的な支援

- 経済的負担を理由とした子育て家庭の困難感を軽減するよう、経済的支援を必要とする家庭への切れ目のない助成や負担軽減に取り組むことが必要です。
- 物価高騰や教育費負担の増加等により子育て家庭の経済的な負担感が増しているが、家庭の経済的な状況によって、子どもの現在・将来の選択が狭められることのないよう、子どもが多様な経験をすることのできる機会や場の提供も含めた支援が求められています。
- 経済的支援に取り組むこととあわせて、必要とする家庭に支援が届くよう、さまざまな支援があるということを積極的に広報していく必要があります。

■子育ての孤立感の解消

- 核家族化の進展や共働き家庭の増加、地域のつながりの希薄化など、子育て家庭をめぐる環境が変化している中で、子育て家庭が孤立感を深めたり、悩みを抱え込んだりすることのないよう、それぞれの家庭が必要とする支援や関わりを地域で適切に提供できる仕組みづくりが必要です。
- 子ども連れの保護者が出向きやすい身近な場所で支援を受けたり、他の子育て家庭と交流できたりする取り組みが求められています。
- 地域が子ども・子育てを温かく見守り、地域全体で子ども・子育てを支えていくという意識を醸成していく必要があります。

(5)社会

■子ども・若者・子育て家庭を応援する社会づくり

- 子どもの権利を保障し、健やかな成長を社会全体で後押しするためには、子ども・若者や子育て家庭を応援する社会の機運の醸成が重要です。
- 子どもや子育てに対するポジティブな意識を社会で共有するような広報・啓発を充実させていく必要があります。
- 本市が子ども・若者・子育て家庭を応援していることが、当事者だけでなくすべての市民に伝わるよう、本市の姿勢を打ち出していくことも求められています。

